Hokkaido University News

北大時報

平成30年
10
No. 775　October 2018

北海道大学ホームカミングデー 2018を開催

お知らせ

・「キャンパス復興支援」について

No.775 平成30年

目 次 10

ホームカミングデー 2018

全学ニュース

1 北海道大学ホームカミングデー 2018を開催
16 北大フロンティア基金
18 平成30年度北海道大学インターンシップを実施
19 名和総長がロシア連邦ハバロフスク市とウラジオストク市を訪問
20 笠原理事・副学長が北極圏大学総会(UArctic Congress)に出席
21 北海道大学交流デー（慶南科学技術大学校）を開催
22 ケープタウン大学で「日本留学フェア・合同学術交流ワークショップ」を開催
23 ウズベキスタン北海道大学アンバサダー バフティヨル・イスラモフ教授及び同国フェルガナ州副知事 ムクシンクジャ・アブドラモノフ氏との懇談会を開催
24 「『研究』で笑い,『研究』で考える」を開催～イグ・ノーベル賞創設者 マーク・エイブラハムズ氏と，北大の受賞者が語り合う～
25 平成30年度教員免許状更新講習を開催
26 Integrated Science Program（ISP）入学式を挙行
27 「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」「日本語・日本文化研修コース(日研コース)」及び「日本語研修コース」入学式を挙行
28 独立行政法人日本学術振興会 平成29年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に工学研究院の松井教授が選出
28 生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭を挙行
29 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第35回「赤い糸会＆緑の会」を開催

部局ニュース

30 学芸員リカレント教育プログラム（學藝リカプロ）くみたて和室×煎茶のコラボレーションイベントを開催
31 理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
32 理学院・理学研究院でPusan National Universityとの学生交流シンポジウムを開催
33 医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
34 工学研究院で寄附分野「循環・エネルギー技術システム分野」の第４回シンポジウムを開催
35 「防災技術イノベーション研究会 Robust BOSAIシンポジウム」を開催
36 農学研究院で平成30年度第２回FD研修会を開催
37 平成30年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス！」が終了
38 平成30年度地球環境科学研究院公開講座「化学物質から読み解く過去・現在・未来の地球環境」が終了
39 国際広報メディア・観光学院が英国シェフィールド大学及び豪州メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
40 「酪農から見えてくる北大観光の未来」を開催
41 電子科学研究所で「サイエンスレクチャー 2018」を開催
42 北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも掘り」を開催
43 北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催
44 北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林における台風被害について
45 附属図書館で「柴田元幸トークライブ～アメリカ文学200年の魅力～」を開催
46 附属図書館本館に「論文の書き方コーナー」を新設
47 故金田弘夫博士の旧蔵資料を大学文書館で受贈

お知らせ

48 「キャンパス復興支援」について

博士学位記授与 49

レクリエーション

56 学内教職員ソフトボール大会の開催
57 平成30年度 第48回 札幌社会人サッカーリーグに出場
57 第57回 全日本教職員バドミントン選手権大会に出場

諸会議の開催状況 58

学内規程 59

研修

60 平成30年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修
61 平成30年度Excelを用いたテキストデータ取扱講座
61 平成30年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修 初級編）

表敬訪問 62

人事 62

63 新任部局長等紹介
63 新任教授紹介

訃報

64 名誉教授 松原 嘉市 氏

名和総長がロシア連邦を訪問

イグノーベル賞創設者を招いたトークイベント

人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubic
第35回「赤い糸会＆緑の会」

北方生物圏フィールド科学センター
じゃがいも掘り

表 紙：北海道大学ホームカミングデー 2018「歓迎式典・記念講演会」（関連記事1頁に掲載）
裏表紙：北の鉄道風景⑰ 晩秋の石勝線夕張支線

▌全学ニュース

北海道大学ホームカミングデー2018を開催

9月28日（金）～9月30日（日）の3日間，「Be ambitious again!」をモットーに，「北海道大学ホームカミングデー2018」を開催しました。7回目の開催となる今年のホームカミングデーは天候にも恵まれ，秋の爽やかな風を感じられるなか，同窓生や在学生の保護者など多くの参加者が札幌キャンパスに集いました。

全学行事のほか，部局・同窓会が主催する様々な行事が行われ，参加者は旧交を温めたり，現役の学生と世代を超えた交流を持つなど，エルムの森で楽しいひとときを過ごしました。

なお，次回，第8回のホームカミングデーは，平成31年9月27日（金）～9月29日（日）の3日間の開催を予定しています。

（総務企画部広報課）

全学行事

総務企画部広報課

歓迎式典・記念講演会

9月29日（土）10:00~11:45　学術交流会館講堂　参加者約250名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。

当初予定していたクラーク会館講堂が，9月6日（木）に発生した平成30年北海道胆振東部地震の影響により使用できなくなったため，急遽学術交流会館講堂を会場として行うこととなりましたが，多くの同窓生や関係者にお集まりいただき，北海道民謡研究会合唱団わだちによる躍動感あふれる「三宅島太鼓」「ソーラン節」の演舞で式典は幕を開けました。

司会は本学経済学部の卒業生である北海道放送株式会社（HBC）の船越ゆかりさんが務め，最初に名和豊春総長から「北海道大学142年の歩みと2つの使命」と題してこれまでの歩みや現在の取組，目指すべき姿について報告があり，「2026年の創基150年を見据え，同窓生をはじめとするすべての関係者と力を合わせてさらに邁進していきたい」とのメッセージを伝えました。次に，石山喬北海道大学校友会エルム会長が歓迎の挨拶として，国立大学を取り巻く環境とともに，校友会エルムの果たす役割や意義について話されました。

続いて，人々を笑わせ，そして考えさせてくれる研究業績に対して贈られる「イグノーベル賞」を昨年度受賞した農学研究院の吉澤和徳准教授が「性器の逆転昆虫トリカヘチャタテの進化」と題して講演を行い，分かりやすく研究内容を説明しました。

その後，「学生からの活動報告」と題し，新渡戸カレッジ，スクール学生2名及び公認学生団体（体育系，文化系）2名による報告がありました。

そして，歓迎のステージでは，北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による演奏が行われ，その穏やかな音色に会場は聞き入った様子でした。

式典の締めくくりは，「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には恵迪寮同窓会

民謡研究会合唱団わだちによる演舞

本学の歩みについて報告する名和総長

歓迎の挨拶を述べる石山会長

吉澤准教授による講演

の呼びかけで役員等もステージに上がり，客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み，会場が一体となりフィナーレを迎えました。参加者の皆様には本学の“今”を体感していただけたことと思います。

活動報告を行う4名の学生

交響楽団による演奏

「都ぞ弥生」の斉唱

部局・同窓会主催行事

文学研究科・文学部，教育学院・教育学研究院・教育学部，法学研究科・法学部，経済学院・経済学研究院・経済学部

文系4学部合同公開企画 「いままでの北海道 これからの北海道ー森田美由紀さんをお迎えして」・同窓会総会・同窓会懇親会

9月29日（土）15:00~19:00　　人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）103室　　参加者125名

文学部・教育学部・法学部・経済学部の４学部による合同開催として，「いままでの北海道 これからの北海道」と題し，同窓生向けの講演会を行いました。

長谷川晃理事・副学長の挨拶の後，同窓会幹事山崎幹根教授の総合司会により，講演会の説明がなされ，ＮＨＫエグゼクティブ・アナウンサー森田美由紀氏から今回のテーマに沿った多種多様な角度からの豊富な話題を交えた講演が行われました。後半では，参加者からの質問に対し，一つ一つに丁寧に回答される姿が印象的でした。

本講演には同窓生に加え教職員約130名が訪れ，充実した講演会が成功裡に終了しました。

公開講演会終了後は，各学部同窓会による総会，次いで，文学部・教育学部・法学部・経済学部同窓会による合同懇親会が行われました。懇親会には秋元克広札幌市長（法学部同窓生）をはじめとして多くの同窓生が出席し，和やかな歓談のひとときを過ごし，学部を越えての交流を深め，盛会のうちに終了しました。

長谷川理事・副学長の挨拶

参加者全体の様子

参加者からの質問

水産科学院・水産科学研究院・水産学部，北水同窓会

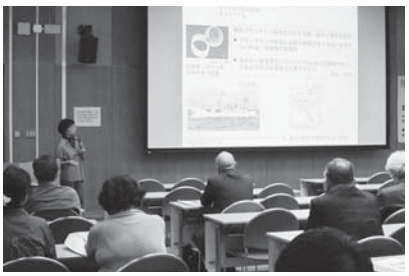
水産学部卒業生のつどい　～講演会，懇親会～

9月29日（土）14:00~17:45　　学術交流会館第1会議室，百年記念会館「北大マルシェ」　　参加者56名

水産学部では，卒業生の中田薫氏（国立研究開発法人水産研究・教育機構　理事）による講演会が行われました。講演に先立ち，北水同窓会の水田浩之幹事長による開会の挨拶に始まり，木村暢夫学部長から函館キャンパスにおける近況報告の後，「水産研究所で海洋研究を行う～プランクトンを通して，気候・生態系・水産資源の変化を見る～」と題する講演が行われ，水産研究所で長期間蓄積されてきたデータやプランクトン試料を活用し，プランクトンの変化を通して気候変動がマイワシ等の水産資源変動に及ぼす影響解明の研究や，東日本大震災対応及び研究所が行う海洋・環境研究の説明があり，大変興味深い内容の講演となりました。最後に閉会の挨拶として，北水同窓会の横山清会長から学生当時の思い出を交えながらのご挨拶がありました。講演会終了後は，百年記念会館の「北大マルシェ」に会場を移し，懇親会が執り行われました。

当日は，講演会と懇親会をあわせ，同窓生，教職員，学生など約60名の方々に参加いただき，和やかな雰囲気のなか盛況のうちに閉会となりました。

木村学部長の挨拶


講演会の様子

懇親会の様子

環境科学院・地球環境科学研究院，環境科学同窓会

松野環境科学賞授賞式，修了生による講演会，コース・研究室紹介パネル展示，懇親会

9月28日（金）14:00~20:00　　環境科学院D201，環境科学院エントランスホール，北大生協中央食堂2階　　参加者84名

環境科学院のホームカミングデーは，今年も松野環境科学賞授賞式で始まりました。授賞式後は修了生による講演会を例年開催しており，学院生時代の就職活動や，修了後の社会での活躍などを，主に在学生へのアドバイスとして講演しています。

まず，地質調査・解析関連に従事されている岡本彩加さんからは，９月に発生した平成30年北海道胆振東部地震の被災地域で，災害復旧のための調査を行っているとの報告がありました。次に，広報や映像関連に従事されている谷内秀久さんからは，テレビ番組ディレクター時の経験と番組制作の裏側についてお話いただき，物事の本質を見極めシンプルに表現する力がとても大切だとのアドバイスがありました。そして，地下微生物の研究をされている上野晃生さんからは，地下の有機物を活用するための実用的な研究を続けていることについての報告があり，最後に，水質改善関連に従事されている杉原幸樹さんからは，学生時代や大学院修了後の経験を基に，学生時代に苦労をしておくことが社会人になってから耐性となり力となる，と力強く語られました。当時の研究を実用している方，あるいは研究から離れた方など様々ですが，いずれも当時の経験を活かし，ご活躍されています。

今年度の懇親会は現役学生の参加が多く，同窓生や教職員を囲んで色々な話がされていました。異世代間の交流もできた，エネルギー溢れる懇親会となりました。

松野環境科学賞受賞者

講演会の様子

懇親会の様子

理学院・理学研究院・理学部，理学部同窓会

理学部ホームカミングデー　理学部企画・学科訪問，同窓会総会，理学部&同窓会交流会

9月29日（土）13:30~18:00　　理学部2号館玄関ロビー他　　参加者76名

理学部のホームカミングデーは，今年も理学部同窓会総会をこの日にあわせて開催しました。

最初に，２号館玄関ロビーを会場に，理学部の現況報告を行いました。石森浩一郎理学研究院長・理学部長，加藤敦之同窓会理事長の歓迎挨拶の後，石森研究院長が研究院・学院組織の説明や，理学研究院・理学部をめぐる最近のトピックスに関して報告しました。次いで，同窓会からの奨学金により国際学会等において研究発表を行った大学院生３名が，旅行中のエピソードを交えて発表を行い，同窓生の方々は聞き入っていました。

その後，同窓会総会を本館大会議室で開催し，議案に対する審議を行いました。例年どおり多くの同窓生に出席いただき，同窓会の運営に関して熱心な質問や意見交換がなされました。

総会終了後，同窓生は，各学科による研究室見学，現役学生・教員との懇談会に参加し交流を深めました。その後，教職員と同窓生はファカルティハウス「エンレイソウ」に移動し，理学部＆同窓会交流会に参加しました。

石森研究院長の挨拶・乾杯で交流会が幕開けし，立食形式による１時間ほどの会でしたが，和やかな雰囲気で進み，歓談の合間には現職教員が各学科の近況を報告しました。また，同窓生からは理学部を応援するお言葉をいただき，加藤同窓会理事長の閉会挨拶・乾杯で盛会のうちに終了しました。

石森研究院長の近況報告

同窓会奨学生の発表

同窓会総会の様子

薬学研究院・薬学部

薬学部生涯教育特別講座秋季講演会

9月29日（土）15:30~17:30　　薬学部臨床薬学講義室　　参加者111名

薬学部生涯教育特別講座は，薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に，医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として実施しています。

９月29日（土），薬学部臨床薬学講義室において生涯教育特別講座秋季講演会を開催し，薬局や病院などの薬剤師の方々をはじめ，薬学部学生や教員，同窓生等111名が参加しました。

はじめにカレスサッポロ北光記念クリニック佐久間一郎氏による「生活習慣病に対する新治療薬使用の現況，新たな機器・ソフトの登場～多業種による治療介入の実際と薬剤師の役割」の講演があり，生活習慣病関連患者への多職種連携によるサポートについて，実際の症例と自ら開発した血糖モニタリング機器の紹介を交えながら解説いただきました。

続いて株式会社日立製作所基礎研究センターシニアプロジェクトマネージャー／北海道大学COIプロジェクトリーダー吉野正則氏に「北海道大学COI『食と健康の達人』の目指すもの」のタイトルで，食や睡眠とQOL

佐久間氏

吉野氏

講演会の様子

の向上との密接な関わりについての地域ぐるみでの取組事例をはじめ，本学COIが行っている事業内容についてご講演いただきました。会場からは様々な質問が寄せられ，活発な議論が行われました。「専門的な話から日常に近い話まで，幅広い領域の話を聞くことができて有意義でした」「薬に頼らない生き方について興味深かったです」など数多くの意見が寄せられました。

農学院・農学研究院・農学部

市民公開・農学特別講演会「農と食が創る持続的な社会」

9月28日（金）13:30~15:20　農学部4階大講堂　参加者127名

本講演会は，明治31年発足の札幌農林学会が開催してきた学術講演会の中の特別講演会を継承・発展させてきたものであり，120年の歴史を持ちます。平成９年以来，同窓生をはじめ，広く一般市民の方々に公開しています。本年も，農学院・農学研究院・農学部，札幌農林学会及び札幌農学同窓会による主催，札幌国際プラザによる後援で，「農と食が創る持続的な社会」をテーマとして開催しました。

野口伸副研究院長による開会挨拶の後，農学研究院の阿部純教授から，「DNAで読み解くダイズの起源と品種の分化」と題する講演が行われました。ダイズの栽培起源地・中国のダイズ品種と日本のダイズ品種の間でのDNA配列の違いや，北海道での栽培に好適なダイズ品種のDNA配列をご紹介いただき，有用なDNA配列の選抜・創出の重要性が分かりました。

続いて農学研究院の小泉章夫教授が「北海道の広葉樹資源の循環利用」と題する講演を行い，広葉樹材が天然林からしか生産できないという現状説明の後，様々な広葉樹材の利用用途と，強度等からみた将来の用途の可能性及び今後の生産方法に関する提言について説明がありました。

会場には同窓生だけでなく，一般市民の方にも多数お集まりいただき，大講堂の多くを埋める127名の参加がありました。参加者からの質問も多く，大変盛会となりました。

阿部教授

小泉教授

会場の様子

国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院

ホームカミングデー@IMCTS2018（修了生meet在学生2018）

9月29日（土）13:00~19:30　メディア・コミュニケーション研究院メディア棟　参加者49名

国際広報メディア・観光学院のホームカミングデーは，恒例の「国際広報メディア・観光学院PRビデオ」の放映で開幕しました。

修了生講演会第１部では国際広報メディア研究科第６期の折田智之氏（北海道新聞社報道センター）より「新聞社から見る北海道観光」と題して，また，第２部では観光創造専攻第４期の吉川福利氏（株式会社北海道日本ハムファイターズ事業企画部）より「観光創造専攻が私に与えた大いなる影響」と題して講演いただきました。それぞれの講演に対して，在学生や教員からいくつもの興味深い質問やコメントがありました。

修了生講演会に引き続き行われた在校生ワークショップは，「特撮・アニメから読み解く“平成”」というテーマで，国際広報メディア専攻及び観光創造専攻の学生が合同でプレゼンテーションを行いました。それぞれのプレゼンテーションに対して，発表者とフロアとの間で，現職教員や同窓生を巻き込んでの活発な質疑応答が行われました。

同窓会総会では，札幌，東京，北京における活動について報告が行われ，今後の同窓会の組織化をさらに高めていく方策について話し合われました。続く懇親会は修了生，教員，在学生や本学院のＯＢ教員で賑わい，盛会のうちに終了しました。

修了生講演会の様子

合同プレゼンテーションの様子

懇親会の様子

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科

保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）

9月29日（土）13:30~16:10　保健科学研究院大会議室（C棟6階）　参加者41名

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科では，保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）と題し，本研究院の各分野から，最近の教育研究の諸活動などについて近況の報告及び卒業生の方々を講師としてお迎えし，これまでの歩み，現在の活動状況などをお話ししていただきました。

齋藤健研究院長からの開催挨拶に始まり，分野紹介では，各分野から構成等及び最近の教育研究について紹介が行われました。講演会では，佐藤ひとみ氏（北海道大学病院看護部長）に，「北海道大学病院看護部が大切にしていること－自分の体験を中心に－」と題し，北大病院看護部が大事にしてきた考え方や変化したこと，これからの方向など，自身の体験を中心に北大病院看護部の今についてお話しいただきました。

続いて，椎名希美氏（合同会社Kプロジェクト代表社員）に，「病院を飛び出しベンチャー企業を立ち上げた放射線技師～人工知能（AI）で医療を生活の一部に～」と題し，近年，人工知能（AI）の発達に伴い，医療にAIを生かすことが出来るのは，現場を知る人のみであることを踏まえ，医療とAI，さらに個人の生活を繋げる取り

齋藤研究院長の開会挨拶

分野紹介の様子

佐藤氏による講演

組みについてお話しいただきました。また，講演後には，質疑応答が行われるなど，参加者からは大変好評でした。

引き続き，昨年度からの取り組みとして，同窓会による総会，次いで，懇親会が開催され，多くの同窓生が出席し，和やかな歓談のひとときを過ごし，世代を超えての交流を深め，盛会のうちに終了しました。

椎名氏による講演

工学院・工学研究院・工学部，情報科学研究科

北海道大学工学系イノベーションフォーラム2018，北工会サークル展示，同窓生向け講演会，同窓生との全体懇親会

北海道大学工学系イノベーションフォーラム2018

9月28日（金）13:30~16:30　　情報科学研究科2階ロビー・A21教室　　参加者82名

本フォーラムは，地域連携や社会連携に向けた研究を支援することを目的とした工学系連携推進企画部が中心となり，工学研究院と情報科学研究科の主催事業として実施しました。

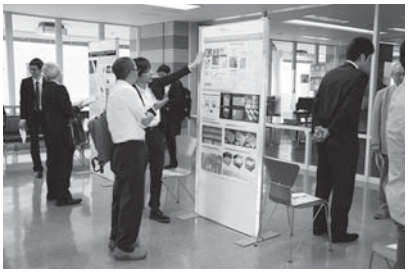
開会挨拶の後，ポスター発表の部として，２階ロビーで工学研究院及び情報科学研究科の最近の代表的研究成果について，27課題のポスター発表を実施しました。

なお，ポスター発表のうち19課題については，工学系連携推進企画部ホームページで工学系研究者シーズ集Vol.16として公開していますので，ぜひご覧ください。（http://labs.eng.hokudai. ac.jp/office/elo/jp/seeds/）

引き続き，イノベーションに関連した講演を情報科学研究科A21教室で２題実施しました。

最初に，大木達也国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー環境領域・環境管理研究部門総括研究主幹から「近未来の都市鉱山構築に向けた技術開発的アプローチ」について講演が行われました。

続いて，富田章久情報科学研究科教授から「超長期安全性を保証する量子融合暗号技術」について講演が行われました。



ポスター発表の様子

大木氏による講演

富田教授による講演

北工会サークル展示

9月29日（土）9:00~17:00　　工学部正面玄関ホール

工学部正面玄関において，北工会（工学部の教職員・学生等の親睦団体）の公認サークルによる作品（書道，写真）を展示しました。ホームカミングデー来場者のほか，在学生や外部からの来訪者の方々も，足を止めて作品に見入っていました。

展示の様子

同窓生向け講演会

9月29日（土）15:00~17:00　　工学部アカデミックラウンジ1　　参加者27名

工学部アカデミックラウンジ１において，工学部の同窓生を対象にした講演会を行いました。

はじめに，増田隆夫工学研究院長・工学部長が歓迎の挨拶を述べた後，工学研究院及び工学部の現況報告を行いました。

山岸泰北海道ガス株式会社技術開発研究所長から「北海道ガス技術開発研究所における産学連携による研究開発について」，今日出人工学研究院特任教授から「工学系におけるこれからの官学連携」，鈴木和彦北海道科学大学理事・副学長から「工学系におけるこれからの学学連携」と題した講演が行われました。

活発な質疑応答が行われるなど，参加者からは大変好評でした。

山岸氏

今特任教授

鈴木氏

会場の様子

同窓生との全体懇親会

9月29日（土）17:00~18:15　　工学部アカデミックラウンジ2　　参加者30名

工学部アカデミックラウンジ２において，工学部の同窓生をお迎えし，全体懇親会を開催しました。

懇親会は，小林幸徳工学院長から開会の挨拶があった後，引き続き，近久武美工学部同窓会理事長からの発声による乾杯の後，歓談となりました。

参加者は，和やかな雰囲気のなか，同窓生同士はもちろん現役教員と交流を深めていました。

最後に，瀬戸口剛工学研究院副研究院長から閉会の挨拶により，懇親会は盛会のうちに終了しました。

乾杯する近久工学部同窓会理事長

歓談の様子

医学院・医学研究院・医学部

北海道大学医学部フラテ祭2018

9月30日（日）13:30~19:00　　医学部学友会館「フラテ」　　参加者89名

医学部では，「北海道大学医学部フラテ祭2018」を開催しました。

第１部の施設・キャンパスツアーでは，教育助教がツアーコンダクターとなり，参加者をご案内しました。施設巡りでは陽子線治療センター・生体試料管理室・電子顕微鏡室・遺伝子病制御研究所・外科実習体験を見学・体験していただきました。キャンパス巡りではバスで大学構内を移動し，第２農場・ポプラ並木・クラーク像・総合博物館を見学して楽しんでいただきました。

第２部の講演会では，吉岡充弘医学部長，寶金清博北海道大学病院長，阿

部弘本学名誉教授が講演を行いました。阿部名誉教授には「医療に国境はない」と題した特別講演をしていただきました。講演会終了後は音羽博次奨学基金授与式が行われ，７名の学生に奨学金が授与されました。

第３部の交歓会では，医学部公認団体アンサンブル・フラテによる「学友会歌」「都ぞ弥生」が披露された後，浅香正博同窓会長のご挨拶・乾杯により開宴されました。学生による弦楽四重奏の演奏の中，同窓生・学生親族・医学部生・教員が一堂に会し，和やかな歓談のひとときを過ごしながら交流を深めることができました。半ばには医学部生による活動紹介が行われ，最後に参加者と「都ぞ弥生」を合唱し，盛会の中フラテ祭を終えることができました。

参加者の方からは「とても興味深いものだった」「また参加したい」等のお声を多数いただきました。

キャンパスツアーの様子

医学部施設巡りの様子

阿部名誉教授による特別講演

交歓会の様子

歯学院・歯学研究院・歯学部

北大の歯学教育，研究，臨床の現状ー次の50年の第一歩としてー

9月29日（土）13:30~15:00　歯学研究院A棟2階歯学部講堂　参加者19名

歯学院・歯学研究院・歯学部では，「北大の歯学教育，研究，臨床の現状－次の50年の第一歩として－」と題し，本研究院及び北海道大学病院歯科診療センター所属の教員による最新の研究や臨床についての講演会，現役学部学生による学生生活等についての報告会を行いました。

歯学部講堂で開催された講演会では，はじめに八若保孝歯学研究院長・学院長・学部長が歓迎の挨拶を述べた後，歯学研究院等の現況報告を行いました。

引き続き，本研究院等所属の各分野の教員から歯科医療及び研究の最新トピックスについて，現役の学部学生から学生生活等について報告を行いました。参加者はメモをとるなどしながら，各教員等の説明に熱心に聞き入っていました。

八若研究院長による挨拶

各分野からの研究及び臨床報告の様子

学生からの学生生活等報告の様子

獣医学院・獣医学研究院・獣医学部

獣医学部同窓会平成30年度通常総会，新評議員会・新理事会，フォーラム・交流会，懇親会

9月29日（土）11:00~18:00　獣医学部講義棟会議室・講堂　参加者76名

獣医学部同窓会通常総会，新評議員会・新理事会，フォーラム・交流会及び懇親会を実施しました。

通常総会は，獣医学部講義棟（講堂）において行われました。総会開催に先立ち，逝去会員に対して黙祷を捧げた後，堀内基広会長（昭61年卒）の挨拶があり，議長に有川二郎氏（昭52年卒），副議長に中尾亮氏（平20年卒），議事録署名人に森下啓太郎氏（平18年卒）が指名され，各議案が審議されました。通常総会に引き続き新評議員会を開催し，新理事の選出の後，新理事会の開催及び講義棟前での記念撮影を実施しました。

続いて，講堂でフォーラム・交流会を開催しました。今年は「共同獣医学課程のさらなる発展に向けて」と題し，同窓生及び現役の学生が，帯広畜産大学と実施している共同獣医学課程の最新事情と，これをさらに発展させるための取り組みについて紹介しました。その後，会議室において懇親会を行い，同窓会員同士や同窓会員と現役学生の間で親睦を深めました。

同窓会員による総会後の集合写真

動物のお医者さんの漆原教授のモデルとなった2人の名誉教授と現役学生

北方生物圏フィールド科学センター

「生物生産研究農場」ミニツアー，植物園見学

9月29日（土）　ミニツアー　①14:30~15:00，②15:30~16:00　植物園見学　9:00~16:00　生物生産研究農場，植物園　参加者59名

北方生物圏フィールド科学センターでは，耕地圏ステーション「生物生産研究農場」のミニツアー及び植物園見学を実施しました。

「生物生産研究農場」ミニツアーには27名の参加があり，センター屋上から農場全体の景色を眺めた後，ポプラ並木，放牧地及びススキ試験圃場を山田敏彦農場長が案内しました。普段間近で見ることの少ない農地や家畜に触れられたことが参加者には好評でした。

また，植物園見学には，本学卒業生等32名の参加があり，園内各所を見学しました。なかには本企画のためわざわざ道外から来園し，園内を懐かしそうに見学されている参加者もいました。

登録有形文化財バチェラー記念館（右）等の外観を見学する参加者たち

博物館を見学する参加者たち

総合博物館

企画スタッフによる企画展「視ることを通して」展示解説，北大ミュージアムクラブMouseionによる展示解説

企画展展示解説　9月29日（土）①13:00~13:30，15:00~15:30
Mouseionによる展示解説　9月29日（土）11:30~14:40（計4回，各回20分）　　総合博物館内各展示室　　参加者21名

秋晴れの中，総合博物館では２つのイベントを開催しました。

総合博物館夏季企画展「視ることを通して」では，展示解説を展示企画者の山下俊介同館助教が行いました。総合博物館が所蔵するビジュアル学術資料「ガラス乾板」「気象学関係映像」「水産学関係教育掛図」「八木健三スケッチブック」の各コレクションに加え，共催の放送大学「百科全書」「北海道古写真」「ちりめん本」コレクションなどの展示資料を紹介し，時期や目的，メディアの異なる様々な資料を比較しながら見るための展示の仕掛けや，ビジュアル学術資料の可能性について解説しました。学術資料を通して，普段見ることのできない研究者の知的営みや人となりがうかがえることも参加者の関心を惹いたようでした。参加者からは，大学の博物館ならではの展示や博物館活動に期待する声も寄せられました。

一方，“博物館を楽しむ”をモットーに北大生が提案・企画・運営している北大ミュージアムクラブMouseionが，常設展の展示解説を行いました。今回は，2017年のイグ・ノーベル賞受賞で話題となったトリカヘチャタテや，標本をくるんでいた明治以降の新聞紙とそれらを保存する博物館ボランティアの活動について，学生が独自にシナリオを作成し，練習を重ねてこの日を迎えました。参加者からは質問だけではなく，知識や経験に基づく貴重な情報を教えていただく場面もあり，学生にとってもホームカミングデーでの交流は貴重な経験になったようです。

「視ることを通して」担当教員による解説

Mouseionによる解説

大学文書館

企画展示「“北大”の愛称100年」，「女性が切り開いた研学の場――女性の北大入学100年」常設展示「北大生の群像」，「札幌農学校遊戯会」，「新渡戸稲造と遠友夜学校」

9月28日（金）~9月30日（日）9:30~16:30　　大学文書館1階　閲覧室前・沿革展示室・展示ホール　　参加者43名

大学文書館では，常設展示「北大生の群像」「札幌農学校遊戯会」「新渡戸稲造と遠友夜学校」（会場：展示ホール）と共に，《２つの“100年”記念企画展示》として，「“北大”の愛称100年」（会場：閲覧室前）と「女性が切り開いた研学の場――女性の北大入学100年」（会場：沿革展示室）の特別展示を，９月28日（金）～９月30日（日）にわたり，公開しました。

３日間限定で閲覧室前において開催した「“北大”の愛称100年」では，前身校「開拓使仮学校」「札幌学校」「札幌農学校」「東北帝国大学農科大学」を経て，1918年「北海道帝国大学」の開学，1947年「北海道大学」への改称に至るまでを，文書資料を中心に陳列しました。

期間中，在学生・同窓生・その家族の皆様43名が見学されました。

企画展示「“北大”の愛称100年」

企画展示「女性が切り開いた研学の場」

公認学生団体（学務部学生支援課）

北海道大学写真部　ホームカミングデー展

9月29日（土）10:00~18:00　　学術交流会館　ホール　　参加者80名

公認学生団体写真部が，写真展を開催し作品を披露しました。訪れた卒業生などの皆様は，部員それぞれが独自の視点で撮影した作品を興味深くご覧になっていました。

写真部の展示

北大キャンパスビジットプロジェクト

キャンパスツアー　ー現役北大生とめぐるキャンパス今昔ー

9月29日（土）13:00~14:30　　札幌キャンパス構内　　参加者6名

クラーク会館を出発し，最終到着地点を高等教育推進機構としたツアーを実施しました。当日は６名の参加があり，参加者の出身学部に応じて班分けを行い，コースには参加者の要望も取り入れました。

ツアーは，スタッフである現役の学生がコース中の学部や施設の現在の様子などを紹介し，参加者に当時の構内や学生生活の様子について伺うという形で進行しました。

参加者からは，学生時代を懐かしむ声や，当時とは違った構内の様子に驚きや感動の声が挙がっていました。現在の本学についてスタッフが参加者からの質問に答えながらも，スタッフ自身も当時の本学の姿，歴史について参加者から学ぶことができ，現役の学生と同窓生が交流を深め，共に新たな本学の一面を知る貴重な機会となりました。

ツアー参加者の方々からは，「普段は行かないところまで案内していただきありがとうございました」「学生時代には知らなかったことまで知ることができました」「楽しい案内でした。また参加したいと思います」などの感想が寄せられました。

北大キャンパスビジットプロジェクトでは，年に数回，一般市民向けのキャンパスツアーを行っており，今秋にもキャンパスツアーを実施する予定です。今回，参加者の方々から伺うことができた本学の過去の様子なども参考にし，これからのキャンパスツアーをより良いものにしていきたいと思います。

現役生と同窓生がキャンパスを散策する様子

今のキャンパスを紹介する様子

現役学生スタッフによるガイドを真剣に聞き入る同窓生

大学力強化推進本部

「寄附で応援!北大の研究」　アンビシャスな交流会

9月30日（日）17:00~20:00　　総合博物館内ミュージアムカフェ ぼらす横 講義室　　参加者8名

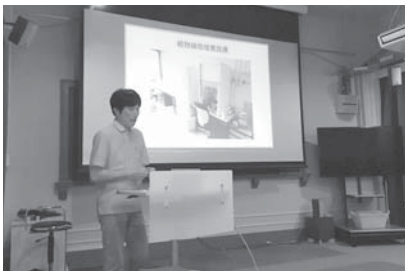
全国に大きな影響を与えつつ北上する台風24号が迫る中，幸いにも予定を変更することなく「アンビシャスな交流会」を開催することができました。

本取り組みをバックアップする大学力強化推進本部小俣友輝URAからの挨拶と取組全体の趣旨説明の後，取組を始めるきっかけを作った遺伝子病制御研究所の藤田恭之教授より，自身の経験を踏まえた，寄附で研究を推進する意義と必要性が語られました。続いて藤田教授を筆頭に先端生命科学研究院の芳賀永教授，保健科学研究院の山内太郎教授，情報科学研究科の瀧川一学准教授の４名より，研究のバックグラウンドと寄附により実現した研究について紹介がありました。

競争的資金等の通常資金で進める研究に加えて，寄附を通じて成しえる「アンビシャスな研究」への挑戦は，本学ならではの未来や夢を市民と共有するきっかけとなると強く感じました。研究資金獲得の一手段として，寄附も検討されてみてはいかがでしょうか。

北大ホームカミングデー2018のwebサイト及びプログラム内に異彩を放つ一イベントとして登録いただいたところ，数名のOBの方にも参加登録いただくことができました。当日参加者は８名と人数面では伸びしろを強く感じたものの，非常に濃密な意見交換ができました。

開催に向けて尽力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。アンビシャス！



寄附で実現した設備導入について説明する芳賀教授

山内教授による研究内容説明

会場の様子

北海道大学校友会エルム

OB講演会及び在学生との懇談会，保護者会員懇談会・キャンパスツアー

OB講演会及び在学生との懇談会

9月28日（金）16:30~19:00　百年記念会館大会議室　参加者38名

百年記念会館大会議室において，「OB講演会及び在学生との懇談会」を開催しました。

OB講演会では，在学生に向けて，各業界で活躍する５名の先輩達である，北海道庁の森本雄介氏（法学部2008年卒），札幌市役所の高橋健太氏（法学部2004年卒），三井不動産株式会社の安田有希氏（工学部2014年卒），北海道電力株式会社の新納裕樹氏（工学部2004年卒），株式会社北洋銀行の千葉史也氏（経済学部2009年卒）に講演いただきました。

講演では，どうしてその企業・官庁を志望したのか，現在どのような業務を行っているのか，学生時代にどのような活動を行っていたのか等，学生目線で語られ，開催趣旨に沿った内容となりました。

また，終了後の懇談会においては，幅広い年代層の卒業生にも参加いただき，企業等における実際の業務の様子など，活発な懇談が行われ，参加された在学生からも有意義な機会だったとの声が寄せられました。

当日，参加いただいた卒業生のほか，連絡調整をいただいた各基礎同窓会の皆様にも厚く御礼申し上げます。

OB講演会の様子

在学生との懇談会

保護者会員懇談会・キャンパスツアー

9月29日（土）12:00~17:00　ファカルティハウス「エンレイソウ」・札幌キャンパス全体　参加者22名

校友会エルム保護者会員を対象に「懇談会及びキャンパスツアー」を実施しました。

懇談会では，保護者会員に対して，校友会エルム設立の趣旨や今後，校友会エルムが実施する事業等の説明を行った後，ファカルティハウス「エンレイソウ」内の「レストランエルム」において，校友会エルムの役員も交え，料理を堪能しながら懇談いただきました。

引き続き，借り上げバスによるキャンパスツアーを行い，最初に向かった植物園では，加藤克助教による詳細な説明の他，普段一般展示されていない所蔵庫等も特別に開放していただきました。

その後，モデルバーンや平成ポプラ並木，北大農場等を見学いただき，最後に見学した総合博物館では，湯浅万紀子教授による詳細説明の後，展示室で参加者と一緒に周りながら解説をいただき，博物館を隈なくご覧いただきました。

参加の皆様からは，「校友会エルムの活動と北大をより知ることができた」との意見も寄せられ，保護者会員の皆様及び校友会エルムの双方にとって大変有意義なイベントとなりました。

レストランエルムでの昼食会

キャンパスツアーの様子（植物園）

キャンパスツアーの様子（博物館）

ほっかいどう同窓会

ランチパーティー

9月29日（土）12:00~13:30　百年記念会館大会議室　参加者92名

ほっかいどう同窓会では，百年記念会館大会議室において北海道大学校友会エルムと共催でランチパーティーを開催しました。三上隆ほっかいどう同窓会会長の挨拶に続いて，名和豊春総長の乾杯でパーティーが始まりました。参加者はテーブルを囲み，道産品をベースにした食事をとりながら話を弾ませていました。

また，パーティーの途中には，東京同窓会の杉江和男会長や近藤龍夫前ほっかいどう同窓会長の挨拶もあり，大いに盛り上がりました。

石山喬校友会エルム会長の中締め挨拶の後，参加者は次の予定に合わせ散会となりました。

受付の様子

三上会長の挨拶に聞き入る参加者の様子

楽しそうな歓談のひととき

一般社団法人恵迪寮同窓会

寮歌の集い

9月29日（土）16:30~18:00　クラーク会館・大集会室　参加者101名

本行事は，札幌農学校・北海道帝国大学から続く恵迪寮精神の伝統を守り，恵迪寮歌を歌い継ごうと，第２回のホームカミングデーから開催しています。今回は，第１部「エルムの森コンサート」，第２部「寮歌の集い」として実施予定でした。当初「エルムの森コンサート」は，北大出身演奏家を招き恵迪寮同窓会と北海道大学交響楽団との共催での開催を予定していましたが，９月６日（木）未明に発生した平成30年北海道胆振東部地震の被災により，会場のクラーク会館・講堂が使用不能となってしまったため，代替施設での開催が困難と判断し中止することとなりました。

第２部で予定していた，恵迪寮精神と寮歌の継承を目指す「寮歌の集い」は，クラーク会館・大集会室で開催しました。

集いには，昭和21年入寮の大先輩から平成28年入寮の現寮生まで，遠くは沖縄から，また，小樽商大の女性応援団員らも参加し，総勢100人を超える集いとなりました。

明治，大正，昭和から平成に至る寮歌を老若男女が一堂に会し「寮歌高唱の宴」は２時間にわたり繰り広げられました。

昭和32年寮歌「花繚乱の」では，作歌作曲者の前島一淑氏が娘さんやお孫さんと一緒に登壇。自ら曲を紹介し，家族仲良く歌う姿に会場も和やかな雰囲気に包まれました。

最後は，参加者全員が肩を組み，「都ぞ弥生」斉唱，次いで「別離の歌」，そして，「ストームの歌」。仲間たちとの交流を深めた「宴」の余韻が残る中，次回の再会を期して終了しました。

年代を超えて集い歌う

現寮生は，平成寮歌「若人よ」を披露

「花繚乱の」作歌作曲者の前島氏はご家族とともに

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は，本学の創基130年を機に，教育研究の一層の充実を図り，これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため，平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に，研究支援，学部等支援など様々な事業を行っており，期限を付さない，息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき，ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（９月30日現在）　23,029件　4,582,119,602円

９月のご寄附状況

法人等11社，個人名の147名の方々から24,754,772円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに，同意をいただいている方々のご芳名，銘板の掲示，感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

伊藤組土建株式会社，キッセイ薬品工業株式会社，テルモ株式会社，北海道赤十字病院会，北海道大学福島県同窓会一同，
北海道武蔵女子短期大学，Meiji Seika ファルマ株式会社

寄附者ご芳名（個　人）

合川　正幸	井口　晃一	石坂　　實	伊藤　長英	稲垣　　彰	稲垣　雅則	井上　清嗣	猪又　　稔
入澤　秀次	上杉　春雄	大久保淳子	大西　信樹	大原　正範	岡　ミネ子	岡崎　朱実	小鳥　達也
小内　　透	小原　大和	角田　敏男	梶原　達也	加藤　　元	加藤　　園	金川　眞行	亀澤　一昭
川倉　健治	河本　充司	菅野　彰一	北村　　愛	雲中　恭裕	古池　延好	小西　藤平	今　　京子
斉藤　　久	齊藤　秀哉	坂本　大介	櫻木　正彦	佐藤　佳孝	佐野　仁美	三升畑元基	三分一博基
志済　聡子	篠原　信雄	杉江　和男	鈴木　貴之	鈴木なみえ	鈴木　　望	鈴木里津子	須藤　和昌
関崎　　勉	瀬田石瑠枝子	瀬名波栄潤	瀬山　邦明	千田　哲生	高橋　　明	髙橋　博幸	田口　昇治
田中　和裕	田中　勇人	玉井　春一	槌田　泰子	土家　琢磨	土屋　　裕	寺澤　　睦	戸田　純子
冨田　泰史	豊田　威信	長尾　正敏	中塚　英俊	中西　　孝	中村　知広	中村　知道	中森　　伸
中山　英章	西川　笙子	西山　　徹	野村　昌史	畑　　健一	原田　匡人	原林　　透	深澤　友博
藤井　一男	藤井　靖久	船津　　明	古澤　正三	古屋　充子	本田　佳則	前田　　博	政氏　伸夫
松沢　幸一	松原　謙一	水上　尚典	皆川　一志	宮田　信幸	村上　幸夫	柳谷　憲治	山下　　勇
山科　紀子	山地ひとみ	山中　政子	横井　健治	横関　　和	横山　　考	吉田　哲憲	吉田　広志
吉本　直人	渡部　洋一						

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法　人）

テルモ株式会社，Meiji Seika ファルマ株式会社

（個　人）

上杉　春雄，大久保淳子，古池　延好，小西　藤平，齊藤　秀哉，佐藤　佳孝，三分一博基，中森　　伸，中山　英章，古屋　充子，山中　政子，横井　健治，横関　　和

感謝状の贈呈

鈴木なみえ　様（平成30年9月21日）

松谷有希雄　様（平成30年9月28日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，基金事務室にご持参ください。
申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，基金事務室にもご用意していますので，基金事務室にお越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　基金事務室（北海道大学 百年記念会館内・学内電話　2017）

（総務企画部広報課）

平成30年度北海道大学インターンシップを実施

主に学部学生を対象としたインターンシップを9月3日（月）～5日（水）の3日間実施しました。

当初予定では，5～8日間の日程で実施予定でしたが，9月6日（木）に発生した平成30年北海道胆振東部地震により6日（木）以降の日程が中止となりました。しかし，短期間の実施にもかかわらず学生は真剣に業務に取り組み，多くのことを学びました。

本インターンシップは，特に近年，社会的にインターンシップへの参加希望者が増加していること，本学卒業生に係る進路状況においても就職先として本学が高い順位を示していること等を踏まえ，学生に就業体験の機会を与えることにより，職業意識の育成・向上に寄与し，併せて本学に対する理解を深めることを目的として実施しています。

今年度は3部局で，4名の学生を受け入れました（別表参照）。

初日は実習生全員を対象として，インターンシップ開講式及び全体オリエンテーションを実施し，各実施部局担当者から「組織運営」「財務」「学務」「施設」「図書」「国際」の6つのテーマに基づき，本学の概要が説明されました。

実習生の中には，初めての就業体験に緊張や戸惑いを見せる学生もいましたが，担当職員から業務の説明を受けると真剣に聞き入り，積極的に業務に取り組んでいました。実習生からの実施報告では「留学生の支援業務や広報誌の作成をはじめ，学生の立場では関われなかったであろう様々な業務を体験できた」「大学職員の業務の多様さ，大学職員として働くことについて具体的に知ることができた」などの感想が寄せられました。

（総務企画部人事課）

附属図書館にてシステムを見学する様子

大学文書館にて職員の説明を受ける様子

受入部局	受入開始日－終了日（当初予定）【実働日数】	実習生	
		所属	学年
総務企画部	9月3日（月）－7日（金）【5日】	教育学部	3年
学務部	9月3日（月）－7日（金）【5日】	経済学部	3年
	9月3日（月）－12日（水）【8日】（土日を除く）	水産科学院	修士1年
附属図書館	9月3日（月）－11日（火）【7日】（土日を除く）	法学部	3年

名和総長がロシア連邦ハバロフスク市とウラジオストク市を訪問

9月9日（日）・10日（月）の両日，名和豊春総長がロシア連邦ハバロフスク市にある太平洋国立大学を訪問しました。

太平洋国立大学は本学の協定校であり，極東地域における重要なパートナー大学の一つです。訪問時にはセルゲイ・イワンチェンコ学長，アレキサンダー・ズバレフ副学長，アレキサンダー・ムシュヴィルダジュ副学長と懇談しました。懇談では，日露大学協会における連携及び本学との今後の交流等について活発な意見交換が行われました。

続く11日（火）～13日（木）に，ウラジオストク市にて開催された第４回東方経済フォーラムに出席しました。東方経済フォーラムは，ロシア極東地域における海外投資の促進，国際ビジネスの活性化等を目的としたフォーラムで，毎年，本学の協定校である極東連邦大学を会場として開催されています。本フォーラムには日露両国の首脳をはじめ，世界各国から政府，経済及び教育関係者が集まりました。

名和総長は，11日（火）・12日（水）に本フォーラムの一環として開催された「The 7th APEC Conference on Cooperation in Higher Education（APEC CCHE'18)」の第３セッション「University in a multi-stakeholder architecture」にも，発表者の一人として参加しました。発表では，本学を紹介した後，プラットフォーム事業について説明し，参加したロシアの大学にも参画を呼びかけるとともに，日本側の本活動への関心の高さを伝えました。

また，12日（水）には，日露ラウンドテーブルに出席し，経済，教育関係者等とビジネス交流も含めた今後の日露交流について話し合いました。さらに，13日（木）には安倍晋三総理大臣との懇談会にも出席しました。名和総長は，安倍総理に対して平成30年北海道胆振東部地震の被害状況確認のための北海道視察について感謝するとともに，安倍総理が昨年の日露学生フォーラムで参加学生を激励されたことに応えて日露学生連盟を立ち上げたこと，及び本年５月に第１回日露大学協会総会を開催したことを報告し，今後本学が日露大学間交流の中心的役割を担っていくことについて決意を述べました。安倍総理からは，今後の本学の日露交流に対する取り組みに期待するコメントをいただきました。

今回のハバロフスク訪問及び第４回東方経済フォーラム出席を機に，本学の日露交流が益々活発になることが期待されます。

（国際部国際連携課）

太平洋国立大学イワンチェンコ学長との懇談

「APEC CCHE'18」出席者による記念撮影

「APEC CCHE'18」にて発表する名和総長（中央）

笠原理事・副学長が北極圏大学総会（UArctic Congress）に出席

参加者による記念撮影（前列左から二人目が笠原理事・副学長）

学長円卓会議で発表する笠原理事・副学長

9月3日（月）・4日（火）の両日，笠原正典理事・副学長が，北極圏大学総会（UArctic Congress）に出席しました。

北極圏大学（UArctic）とは，カナダ，デンマーク，フィンランド，アイスランド，ノルウェー，ロシア，スウェーデン，及びアメリカ合衆国を中心とした，北方圏における課題に係る教育・研究のための教育機関ネットワークです。本学は，2011年から日本から唯一の非北極圏メンバーとして加盟しています。

UArctic Congress は，学長フォーラムや運営会議（カウンシルミーティング）等の各種会議・プログラムを一堂に開催するものです。今年は本学と大学間交流協定を締結しているフィンランド共和国のオウル大学（オウル市）及びヘルシンキ大学（ヘルシンキ市）を会場とし，9月3日（月）～7日（金）にかけて開催されました。

本総会には，本学から笠原理事・副学長の他，欧州ヘルシンキオフィスの田畑伸一郎所長をはじめ，北極域研究センター，スラブ・ユーラシア研究センター，文学研究科からも研究者が出席しました。また，学生向けセッションには本学から2名の大学院生が出席しました。

笠原理事・副学長は，参加校の学長・副学長が参加する報告会や円卓会議に出席しました。3日（月）の学長円卓会議では，「Connectivity」をテーマとして本学の北極域研究を紹介しました。発表の中で，笠原理事・副学長は，日本北極研究ネットワークセンター（J-ARC Net）を中心とした研究ネットワーク，北極海航路及び北極海の光ケーブル計画に関する本学の研究活動について紹介しました。また，本学が光ケーブルに関する国際シンポジウム等の主催を通じ，北極域に関する様々な問題の存在を国内外に普及すること，また，北極域と東アジアという地域同士を繋ぐ役目を果たしていることも併せて紹介しました。

4日（火）に行われた総会開会式では，フィンランド共和国のユハ・シピラ首相，モナコ公国のアルベール2世公などの開会挨拶に続き，「2030年の北極域の課題」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。また，5日（水）には，笠原理事・副学長はヘルシンキ大学にある欧州ヘルシンキオフィスを視察し，岡部赳大ヘルシンキオフィス副所長からオフィスの活動状況及び今後の活動計画等について報告を受けました。

今回のUArctic Congressへの参加により，ヨーロッパをはじめとする北極圏の大学との交流がさらに発展することが期待されます。

（国際部国際連携課）

北海道大学交流デー（慶南科学技術大学校）を開催

シンポジウム参加者集合写真*

慶南科学技術大学校・金総長への表敬訪問

本学では，共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため，慶南科学技術大学校において，８月29日（水）に慶南科学技術大学校金南京総長への表敬訪問を，８月30日（木）に北海道大学交流デーを行いました。

慶南科学技術大学校と本学は2017年７月に金総長が本学を訪問され，また2018年１月に農学院・農学研究院・農学部，国際食資源学院との間で部局間交流協定を締結するなど交流を重ねてきています。

８月29日（水）の金総長への表敬訪問では，今後の両大学の交流に関する懇談を行い，その後，金総長にキャンパスをご案内いただきました。博物館では，金総長から，本学の卒業生（東北帝国大学農科大学1916年卒）である今村忠夫氏について，慶南科学技術大学校の前身にあたる晋州公立農業学校の校長を20年間務め，熱心な教育を行ったことなど本学との歴史的なつながりをお話しいただきました。

８月30日（木）の大学交流デーでは，「グローバル課題解決のための人材育成と大学の役割」をテーマにジョイントシンポジウムを開催し，慶南科学技術大学校から金総長をはじめ教職員及び学生約60人が出席し，本学からは，井上京国際食資源学院長，小林幸徳工学院長をはじめ８人の教職員及び学生が出席しました。

ジョイントシンポジウムは，金総長の挨拶からはじまり，続いて，本学の井上国際食資源学院長の挨拶の後，慶南科学技術大学校からはCho Young-Son教授及びLee Dong Kyu韓国南東発電会社シニアマネージャーが，本学からは井上国際食資源学院長，小林工学院長，平野高司農学研究院教授，曾根輝雄農学研究院教授が講演を行いました。引き続いて，ポスターセッションが行われ，慶南科学技術大学校からは30名，本学からは工学院の２名の学生がポスター発表を行い，参加者と議論が盛り上がる場面も見られ，非常に実りある交流デーとなりました。

今後も国際連携機構では，韓国における教育・研究機関等との連携拡大，教員や学生の相互交流の促進，卒業生ネットワークの構築を行い，幅広い面での交流を強化していきます。

*慶南科学技術大学校ウェブサイトから転載

（国際部国際連携課）

金総長挨拶

井上国際食資源学院長挨拶

ケープタウン大学で「日本留学フェア・合同学術交流ワークショップ」を開催

本学アフリカルサカオフィスでは，９月18日（火），南アフリカ共和国西ケープ州に位置するケープタウン大学，ステレンボッシュ大学，西ケープ大学，ケープペニンシュラ工科大学の４校との共催で「日本留学フェア」を開催しました。本フェアは，サブサハラ・アフリカ地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に，本学が文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業（旧留学コーディネーター配置事業）」の一環として実施したものです。

西ケープ州には，アフリカトップクラスの大学が揃っています。本フェアの会場となったケープタウン大学は，南アフリカ最古かつ最高の研究機関と称され，世界初の心臓移植手術を成功させたことでも知られています。西ケープ州は同国内でも治安が比較的安定しており，各大学は研究開発だけでなく海外提携校との学生交流にも積極的です。さらに，親日派が多く，民間教室による日本語教育も実施されています。アフリカ随一の経済規模を誇る南アフリカには現在130社近い日本企業が進出しており，日本留学経験者を活用できうる環境があります。

本イベントは，在南アフリカ日本国大使館在ケープタウン領事事務所，日本学術振興会（JSPS）ナイロビ研究連絡センター，国際協力機構（JICA）南アフリカ事務所の協力のもと実施され，日本からは本学，京都大学，国際大学，筑波大学，東京外国語大学，東洋大学，長崎大学，名古屋外国語大学，立教大学の９校が参加しました。本学からは，島竜一郎国際連携機構副機構長・国際部長，アフリカルサカオフィス所長の奥村正裕獣医学研究院教授，同オフィス留学コーディネーターの中村聡特任講師，成澤徳子特任助教，大門碧特任助教，国際部の安高由香利特定専門職員に加え，地球環境科学研究院の豊田和弘准教授がテレビ会議システムにより参加しました。

開会にあたって，まずケープタウン大学国際学術プログラムオフィスのキャロル・オジュワング所長の開会挨拶，島副機構長の挨拶の後，来賓の在ケープタウン領事事務所の内藤康司参事官兼領事から祝辞をいただきました。次に，アフリカルサカオフィスから日本留学の概要，在ケープタウン領事事務所から日本政府の奨学制度について説明がありました。続いて，元国費留学生で，ケープタウン市で日本式学習塾を立ち上げたブヤニ・リンゲラ氏により留学体験談が披露され，最後に日本の参加大学が各校の研究教育の特色と留学制度の概要について紹介しました。その後，日本の参加大学，在ケープタウン領事事務所，JSPS，あしなが育英会（あしながウガンダ）による個別相談の時間を設けたほか，資料参加した20大学・機関※の案内資料を配布しました。本説明会には，日本留学に高い関心をもつ大学生や高校生を中心に約140名が参加し，閉会間際まで熱心な留学相談が行われました。

また，留学フェア開催にあわせ，学部生の留学誘致も視野に入れ，日本の参加大学が現地の優良高等学校を視察する機会を設けました。本学，筑波大学，東京外国語大学，東洋大学，長崎大学の５校が，ケープタウン市内でも伝統のある男子校のひとつ，ビショップス・ディオセザン・カレッジを訪問し，同校の進路指導担当教員と面談を行いました。同校教員から，卒業生の海外留学に関する概況と指導方針の説明を受け，日本側参加校からは各校の留学生誘致に関する取組の説明と資料の提供が行われました。欧米をはじめ海外の大学に多くの卒業生を輩出している同校からは，今回，アジア地域の大学による初めての訪問に高い関心が示され，今後の学生交流の展開が期待されました。

加えて，前日の17日（月）には，両

日本留学説明会

個別相談の様子

本学のブース

市内高校訪問

島国際連携機構副機構長による挨拶

学術交流ワークショップ参加者

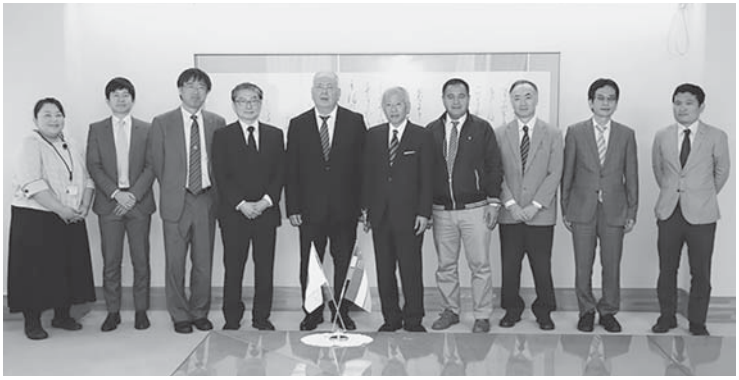
国大学間の学術交流の可能性を探る合同学術交流ワークショップを開催しました。ケープタウン大学リサーチオフィスのマリレット・シナート所長の開会挨拶，島副機構長の挨拶の後，南アフリカ国立研究財団（NRF），JSPSナイロビ研究連絡センター，JICA南アフリカ事務所の各代表から，両国の研究支援プログラムの概略が説明されました。次に，内藤参事官兼領事に，両国間の科学技術協力の実績と今後の展望について講演いただきました。続いて，日本から参加した大学の参加者がそれぞれの大学の研究教育の特色と自身の研究内容について紹介した後，南アフリカの参加者と互いの関心に応じて個別に面談し，今後の研究・学生交流に向けた意見交換を活発に行いました。大学の教職員を中心に66名が集った本ワークショップは，ケープタウン大学のマイケル・キョウベ副学長補の挨拶をもって閉会しました。

アフリカルサカオフィスでは引き続き，教育機関，行政，支援機関や企業等と連携し，日本とアフリカの間の学術・学生交流を促進する活動を実施していきます。

※秋田大学，小樽商科大学，お茶の水女子大学，九州大学，九州工業大学，上智大学，信州大学，東京海洋大学，東京工業大学，東京国際大学，東京農工大学，同志社大学（ビジネス研究科グローバル経営研究専攻），東北大学，富山大学，名古屋大学，新潟大学，弘前大学，山形大学，横浜国立大学，日本学生支援機構（JASSO）（計20大学・機関，50音順）

（国際部国際連携課）

ウズベキスタン北海道大学アンバサダー バフティヨル・イスラモフ教授及び同国フェルガナ州副知事 ムクシンクジャ・アブドラモノフ氏との懇談会を開催



本学関係者との記念撮影

バフティヨル・イスラモフ教授（左）と
ムクシンクジャ・アブドラモノフ氏（右）

9月27日（木），本学において，ウズベキスタン在住の北海道大学アンバサダー バフティヨル・イスラモフ教授及び同国フェルガナ州副知事 ムクシンクジャ・アブドラモノフ氏との懇談会を開催しました。

イスラモフ教授は，プレハーノフ・ロシア経済大学タシケント校及びタシケント国立経済大学に所属し，研究者として膨大な著作を出版しているウズベキスタンを代表する移行経済学の学者であると同時に，駐ロシア特命全権大使や外務副大臣を務めたという実務家でもあります。また，本学スラブ・ユーラシア研究センター及び経済学研究院において外国人招へい教員として研究・教育活動に従事していた経験から，世界経済外交大学（タシケント）との大学間交流協定の実現やウズベキスタン留学生受入，並びにウズベキスタンへの学生派遣に多大な協力をいただいてきました。

一方，フェルガナ州副知事 ムクシンクジャ・アブドラモノフ氏は本学経済学研究院で博士号を取得した同窓生です。フェルガナ州都・フェルガナのフェルガナ大学はウズベキスタン国内随一の日本語教育が行われる高等教育機関となっています。

懇談会には，本学側から，笠原正典理事・副学長，田畑伸一郎欧州ヘルシンキオフィス所長，町野和夫経済学研究院教授，宇山智彦スラブ・ユーラシア研究センター教授，樋渡雅人公共政策学連携研究部准教授，川野辺創国際連携機構副機構長らが出席し，これまでの協働について感謝を述べるとともに，本学とウズベキスタンの大学との連携の促進及びウズベキスタンのみならずロシア・CIS諸国からの優秀な留学生の確保の協力をお願いしたところ，快諾していただきました。

今回の懇談会を機に，プレハーノフ・ロシア世界経済大学をはじめとしたウズベキスタンの大学と本学との教育・研究交流活動の推進はもちろん，ロシア・CIS地域全体における留学生リクルーティング活動の活性化が，今後ますます期待されます。

（総務企画部広報課）

「『研究』で笑い，『研究』で考える」を開催
～イグ・ノーベル賞創設者 マーク・エイブラハムズ氏と，北大の受賞者が語り合う～

「人々を笑わせ，そして考えさせてくれる研究」に対して贈られ，日本人が今年12年連続で受賞したことでも話題となった「イグ・ノーベル賞」。

９月26日（水），イグ・ノーベル賞創設者のマーク・エイブラハムズ氏に本学札幌キャンパスにお越しいただき，電子科学研究所の中垣俊之教授，農学研究院の吉澤和徳准教授とのトークイベントを開催しました。当日は，CoSTEPの受講生を中心とした35名が集い，本学CoSTEP の古澤輝由特任助教が司会を務めました。古澤特任助教は，毎年ハーバード大学で開かれる授賞式に訪れており，サイエンスZERO（NHK Eテレ）でも解説を務められたことがあります。

イベントは，エイブラハムズ氏による，イグ・ノーベル賞についてのレクチャーから始まりました。過去にイグ・ノーベル賞に輝いた研究が次々に紹介され，会場は笑いに包まれました。次に，エイブラハムズ氏考案の“Two/Too Lectures”が行われました。これは，自身の研究内容をより分かりやすく伝えるために，全く違った２つの方法で，それぞれ２分以内に説明するという新しい試みです。初めに挑戦したのは，中垣教授。中垣教授は，粘菌に迷路を解く能力があることを発見した業績に対して，2008年イグ・ノーベル賞認知科学賞，そして粘菌を用いて鉄道などの最適ネットワークを設計する研究で，2010年イグ・ノーベル賞交通計画賞と，二度受賞しています。１つ目のレクチャーでは，粘菌を生物として説明し，２つ目では，粘菌をネバネバ，つまり単なる管と捉えて物理的に説明しました。続いての挑戦は，ブラジルの洞窟に棲む昆虫「トリカヘチャタテ」の生殖器の形状が雌雄逆転していることを発見した業績に対して，2017年イグ・ノーベル生物学賞を受賞した吉澤准教授。吉澤准教授は，トリカヘチャタテについて学術的に説明した後，今度は人に例えて説明しました。続いて，会場から質問が寄せられ，イグ・ノーベル賞創設のきっかけについて問われたエイブラハムズ氏は，「科学雑誌の編集をしていたときに，世の中には，素晴らしくて面白い研究をしている人が山ほどいるのに，多くの人はそれを知らないということに気が付きました。また，最高なもの（もしくは最悪なもの）に贈られる賞は多々ありますが，それ以外の切り口で称えられることはこれまでにありませんでした。だから，この賞を作りました」と答えていました。また，「最近は実用的な研究が求められる傾向にありますが，まだ誰にも理解できないような研究こそが，真の研究なのではないでしょうか」とも話していました。

その後，古澤特任助教からのサプライズで，2013年にイグ・ノーベル化学賞を受賞した，切っても涙が出ない玉ねぎ「スマイル・ボール」が運び込まれ，エイブラハムズ氏にカットしていただき，観客全員で試食しました。最後に，イグ・ノーベル賞授賞式に倣い，観客が受賞者に向かって一斉に紙飛行機を飛ばし，イベントは幕を閉じました。

イグ・ノーベル賞が設立されたことで，ユーモア溢れる研究が広く知られるようになりました。それは何十年も人々の心に残り，様々な思いを巡らせてくれることでしょう。いわゆる「役に立つ」研究とは一体何なのか，研究の良し悪しをそのようなもので判断してしまって良いのか，まさに，「笑って，そして考えさせられる」トークイベントでした。

イベントの映像は，11月下旬頃，下記ウェブサイトにて公開予定です。
〈TERRACE－科学とアートが出会う場所－ https://terrace.cris.hokudai.ac.jp/〉

（CoSTEP，総務企画部広報課）

イグ・ノーベル賞創設者のエイブラハムズ氏

トークの様子

「イグおじさん」こと古澤特任助教

ユーモア溢れる研究内容に，思わず笑みがこぼれる観客

イベントオリジナルのTシャツを着た中垣教授（左），吉澤准教授（右）

一体となって楽しむ会場の様子

平成30年度教員免許状更新講習を開催

７月28日（土）から８月17日（金）にかけて，今年度の教員免許状更新講習を開催しました。

現在教員免許を持っている現職教員等は，10年ごとに設定される修了確認期限前の２年間に，大学などが開設する30時間の教員免許状更新講習（必修領域・選択必修領域においてはそれぞれ６時間，選択領域においては18時間）を受講・修了し，免許管理者（都道府県教育委員会）に申請する必要があります。本講習制度は，その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技能を身に付けることで，教員が自信と誇りを持って教壇に立ち，社会の尊敬と信頼を得ることを目指すために，平成21年４月１日に導入されました。

平成21年度以降，本学では毎年講習を実施しており，今年度も様々な学校種の教員等を対象として，全７講習を開催しました。今年度は講習の受講対象者の増加があったため，定員を前年度から全体で62名増やし，必修領域の受講者数147名，選択必修領域の受講者数149名，選択領域の受講者数は５講習あわせて252名の参加がありました。

講習では，担当講師からのオリエンテーションの後，各テーマに関しての講義や実習が行われ，講習のまとめとして修了認定試験を行いました。講習後に寄せられたアンケートでは，「具体的な事例が多く取り上げられていて，日々の授業の改善のきっかけにすることができそうです」「“聴く”ばかりでなく，自分のこととして問題を捉え・考える工夫が多く，大変ためになりました」などの意見があった他，実習を主とする講習の受講者からは，「実習船に未経験者を乗船させるのは大変な手間だとは思いますが，とても素晴らしい経験をさせていただきました。今後ともぜひこの講習を続けてください」「実習に来させていただく前からかなり期待していたのですが，実際は想像を超える以上の感動と収穫がありました。先生方のあまりにも幅広い知識や海洋調査の方法の斬新性等，素晴らしい体験ができました」などの意見が寄せられ，本講習の意義を改めて感じる良い機会となりました。

なお，今年度開催した講習は以下のとおりです。

（学務部学務企画課）

「練習船による水産科学実習」の様子

領域	講習名	開設日	講習時間	定員	受講者数
必修	教育の今日的課題とその改革の方途	8/15	6時間	150人	147人
選択必修	子ども・家族理解の視点と学校の組織的対応	8/16	6時間	150人	149人
選択	応用文学で読み解くヘミングウェイ	7/28	6時間	40人	14人
	理系の応用技術：工学の世界	8/7	6時間	50人	23人
	芸術によって生かされている私たち	8/8	6時間	50人	50人
	特別支援教育	8/17	6時間	150人	147人
	練習船による水産科学実習	8/4～8/6	18時間	９人	９人
		8/7～8/9	18時間	９人	９人

Integrated Science Program（ISP）入学式を挙行

出席者記念撮影

長谷川インテグレイテッドサイエンスプログラム長による祝辞

新入生代表による宣誓

昨年度より開始された外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「Integrated Science Program（インテグレイテッドサイエンスプログラム）（ISP）」の入学式を９月25日（火）に理学部大講堂において行い，当該プログラムの第２期生となる９名（８ヶ国）が学士課程に入学しました。

このプログラムは，国際社会で活躍できる人材の育成を目的としており，学士課程では，入学後半年間で理系分野に関する幅広い基礎知識を身につけ，その後，理系学部の諸分野から所属学科が決定され，学びを深めることとしています。今回入学した第２期生は，理学部（物理学科・化学科・生物科学科生物学専修分野）に移行して，専門教育を受けることとなっています。

入学式は，ISPのプログラム長である長谷川晃理事・副学長，副プログラム長の高橋彩総長補佐，石森浩一郎理学部長及び理学部物理学科，化学科，生物科学科教員の列席の下，緊張の中にも和やかな雰囲気で執り行われました。

最初に，長谷川プログラム長が祝辞を述べ，本学の学生として一歩を踏み出したISP第２期生たちに歓迎の意を表しました。

続いて，ISPコーディネーターの瀬戸治特任准教授による新入生の紹介が行われ，マレーシア出身のモード・ファリズ・ムハマド・アイマン・ビンさんが代表して宣誓を行いました。

最後は，後輩となる学生たちの入学を祝うために駆けつけたISP第１期生も交えて，列席者全員で記念撮影が行われました。

入学式終了後は，同会場にて理学部主催の新入生ガイダンスが開催され，各学科の紹介を中心とした興味深い内容に新入生達は熱心に聞き入っていました。

（学務部教育推進課）

「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙行

本年10月入学の「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」の入学式を，10月１日（月）に学術交流会館において行いました。

HUSTEPは，本学の協定校に在籍する留学生に対して原則として英語による授業を実施する１年または６か月間のプログラム，日研コースは，母国で日本語・日本文化に関する教育を行う学部に在籍している留学生に対して日本語・日本文化・日本事情に関する教育を行う１年または６か月間の研修コース，そして日本語研修コースは，大学院進学前の大使館推薦の国費留学生，工学部進学前の日韓理工系プログラムの留学生，及び現代日本学プログラム予備課程の留学生に対して開設されている６か月間の日本語予備教育を行う研修コースです。

今回入学したのはHUSTEPに61名，日研コースに45名，日本語研修コースに30名の合計136名です。

出席者の紹介が行われた後，各プログラム担当教員によるプログラム紹介があり，学生は起立し，温かい拍手で迎えられました。その後，長谷川晃高等教育推進機構長からの祝辞，日研コースのサシラダー タイターラーさんによる留学生代表スピーチが続き，サシラダーさんは留学への意気込みや抱負について日本語で楽しく語りました。

最後は，学生たちの緊張もほぐれ，和やかな雰囲気の中，笑顔いっぱいで集合写真の撮影を行いました。

（学務部国際交流課）

長谷川高等教育推進機構長による祝辞

北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）１年コース留学生

北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）半年コース留学生

日本語・日本文化研修コース（日研コース）留学生

現代日本学プログラム留学生（日本語研修コース）

国費留学生・日韓理工系プログラム留学生（日本語研修コース）

独立行政法人日本学術振興会　平成29年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に工学研究院の松井教授が選出

この度，独立行政法人日本学術振興会より，平成29年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰者が公表されました。今回は，書面審査において有意義な審査意見を付した専門委員等として，対象者約600名の中から137名が選出され，本学からは，工学研究院の松井佳彦教授が表彰されました。

（研究推進部研究振興企画課）

（左から）増田工学研究院長，松井教授

生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭を挙行

創成研究機構では，９月28日（金）に，生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設において，創薬・機能性食素材の研究開発・事業化の礎として実験に供せられたマウス，ラット，ウサギの慰霊祭を執り行いました。慰霊祭には同施設で研究を行っている教職員，大学院生等約60人が参列しました。

はじめに生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センターの幸田敏明センター長から，動物実験は，尊い命を犠牲にしていることを常に念頭に置いて実施していただきたい旨の挨拶があり，その後，参列者全員による黙祷並びに献花が行われ，終わりに綾部時芳先端生命科学研究院教授から，医学・生命科学の研究のために捧げられた動物に対する慰霊の言葉が述べられました。

参列者全員が生命の尊厳，倫理観について考える機会となり，厳粛のうちに慰霊祭を終了しました。

（研究推進部研究支援課）

挨拶を述べる幸田センター長

参列者による献花

人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第35回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは，９月20日（木）に学術交流会館にて本年度第１回「赤い糸会＆緑の会」を開催しました。

本会は，企業と若手研究者（DC，PD）との直接情報交換会であり，企業には若手研究者の高い専門性や総合力を理解いただき，若手研究者には企業の研究開発活動や企業における博士の活躍状況等を知ってもらうことで，相互理解を深め，視野の複線化，活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で「赤い糸会＆緑の会」は通算35回目の開催となり，若手研究者の参加も回を重ねるにつれ増加し，10部局からDC43名が参加，また，平成26年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業で，他大学から若手研究者６名（東北大学４名，名古屋大学１名，横浜国立大学１名）も参加しました。企業からは，総勢42名（各種業界17社（33名），オブザーバ企業１社，オブザーバ大学３校）にご参加いただきました。

本会では，冒頭の人材育成本部長の笠原正典理事・副学長による開会挨拶，赤い糸会担当の樋口直樹特任教授による趣旨説明の後，参加企業の皆様から業界動向や博士の活躍状況等の紹介が行われ，その後，若手研究者の自己紹介ポスター発表，企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。さらには，この「赤い糸会＆緑の会」を通じて企業に就職した若手研究者の先輩方が今回は３名企業説明会に参加し，後輩達に対して熱い思いを語ってくれました。

開催後の企業側のコメントからも，「当社にとって非常に重要なイベントです。特にポスターを見られるのが良いです」「この会をきっかけに本年度採用に結び付けることができました。今後もこのご縁を継続できれば幸いです」との声をいただくことができました。また参加した若手研究者からは，「色々な業界の方との交流が一度に出来る貴重な機会だと思います。異分野への興味がわきました。有意義でした」「就活を始めるのに最適な会だと思った」といった嬉しい声も聞かれました。

人材育成本部では上記の活動に加えて，企業事業所視察，Advanced COSA，J-window，キャリアパス多様化支援セミナー，キャリアマネジメントセミナー，企業での長期インターンシップ等を通して，これまで以上に若手研究者の実践力を高めることへ注力して参ります。また，コンソーシアム結成により，東北大学や名古屋大学等が運営している，より多くの洗練されたプログラムも博士達に活用されていますので，今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお，興味のある方は人材育成本部のホームページを是非ご覧ください。

◆http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp

（人材育成本部）

笠原人材育成本部長の開会挨拶

樋口人材育成本部特任教授の趣旨説明

企業からの業界動向説明

説明に聞き入る若手研究者

若手研究者のポスター発表

企業との個別情報交換

学芸員リカレント教育プログラム（學藝リカプロ）くみたて和室×煎茶のコラボレーションイベントを開催

9月22日（土），本学構内にくみたてた二畳敷きの和室を舞台としながら一級の煎茶文化を体感するというイベントを開催しました。これは，平成30年度から文学研究科が取り組んでいる，学芸員リカレント教育プログラム，通称「學藝リカプロ」の一環として行われたものです。現役の学芸員を中心とする受講生14名と一般の来場者18名が，煎茶を愉しみつつ，ミュージアムについて学び考える機会となりました。

和室は，工学研究院の小澤丈夫教授が中心となり，同研究院建築デザイン学研究室が開発してきた「くみたて和室」です。これまでにも多くの場所に設置してきた実績があります。本イベントでは当初，総合博物館の北に広がるエルムの森に「くみたて和室」を設置する予定でしたが，当日は天候が安定せず，工学部建築都市スタジオ棟での設置となりました。何もなかったはずの空間に，僅か15分弱で茶室が現れるという手際の良さに，参加者も目を見張っていました。

出来たばかりのその茶室を使って煎茶の席を設けたのは，煎茶「一茶庵」の佃　一輝宗匠です。佃宗匠は，茶室を取り囲んで座る参加者たちに語りかけながら，用意された二つの掛け軸の意味に迫っていきます。参加者たちは，途中で供される煎茶を味わいながら，書画と会話によってもてなされるという経験をすることになりました。

閉会後に行われたアフタートークでは，煎茶席での鑑賞と現代のミュージアムでの鑑賞との違いについても考えながら，興味深い意見交換が行われました。

（文学研究科）

くみたて和室　設置イメージ

くみたて和室　屋外設置時

くみたて和室　設置の様子

くみたて和室について解説する小澤教授

参加者への煎茶提供の様子

参加者に問いかける佃宗匠

理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催

理学部生物科学科（高分子機能学）では平成19年度から毎年，体験入学「ひらめき☆ときめきサイエンス」を実施しています。平成30年度は，８月５日（日）と６日（月）に開催したオープンキャンパスに引き続き，８月７日（火）に理学部及び次世代物質生命科学研究センターで実施しました。今回は学科の特色である高分子科学の題材から，以下の８つのオリジナルテーマに対してそれぞれ班分けして取り組みました。

1）生体分子の構造を重さで決める～質量分析技術
2）磁石の力で調べる生体分子の構造～化学から創薬まで活躍する核磁気共鳴技術
3）生体防御の最前線～タンパク質の作る不思議な世界。模型を作ってのぞいてみよう！～
4）がんの悪さを直接見てみよう！
5）体験☆負けるな小腸・頑張れ免疫！
6）DNA鑑定をしてみよう
7）細胞の元気さの指標・ミトコンドリアの動きを見てみよう
8）生きものにちかい材料「ゲル」を作ろう

参加者には，申込時にwebサイト上で上記の実験テーマから１つを選択してもらい，これまでの化学，生物，物理の授業での知識を活用しながら，最新の研究につながる実験を経験してもらいました。実際の大学での研究は，高校までの化学，生物，物理，地学，数学，英語，国語が総合的に要求され，また，それゆえに個々の研究者自身のオリジナリティが発揮されることを理解してもらえるように，それぞれ工夫した内容となりました。

当日は33名の参加があり，全体に対して社会におけるサイエンスや高分子に関する基礎講義を行った後，事前に申し込んでおいた１～６人の小グループに分かれました。それぞれの実験室に移動後，実験テーマごとの基礎的な説明を簡単な講義形式で行い，その後実験を実施しました。アクティブラーニングとなるよう，各グループの受講生それぞれに十分な原理の理解や実験機器操作等の時間を取り，高校までの知識が大学でのより高度な実験の理解に結び付き，受講生が自発的に活発に実験できるような仕組みとしました。また，本学の大学生・院生が実施協力者を務めることで，大学生活に関する話や将来設計などをより身近に感じてもらうとともに，親近感をもってサイエンスに参画してもらうことができました。

実施にあたり支援をいただいた教職員の方々，また事前準備や当日の実験補助に協力してくれた大学院生，学部生に厚くお礼申し上げます。

（理学部，生命科学院・先端生命科学研究院）

研究院長の模擬授業を受講する様子

DNA増幅実験

がん細胞培養実験

理学院・理学研究院でPusan National Universityとの学生交流シンポジウムを開催

理学院・理学研究院では，2016年に韓国のPusan National University（PNU）と学生の相互交流を目的とした覚書（MOU）を結びました。その一環として理学院物性物理学専攻では，大学院生の英語でのプレゼンテーション能力の向上と連携研究室（RIKEN，NIMS）の学生との交流を目的として，学生が企画運営するシンポジウムEmallia会議にPNUの学生を招待する形で相互交流を行っています。2016年度には本学において，2017年度にはPNUにおいて開催されている本シンポジウムですが，本年度は，第４回Emallia会議として，７月23日（月）から25日（水）に工学部のアカデミックラウンジにおいて開催しました。

連携研究室を含め本学からは38名，PNUからはChan-Hwan Lee教授を含む14名（国籍で６カ国）が参加し，７件の招待講演を含む35件の口頭発表と20件のポスター発表が行われました。会議進行の座長は本学及びPNUの学生が分担して対応しており，双方の学生のプレゼンテーションも前回に比べ各段の向上が見受けられました。また，違った研究分野の学生に自分の研究を英語で紹介するための工夫が各講演で見られました。

また，７月24日（火）には，大学生協の中央食堂において懇親会が開催され，本学及びPNUの学生，教員同士で親睦が深められました。今回の会議は学生委員会として中心的な役割を果たした理学院物性物理学専攻の河野航君，石井裕人君の貢献がなければ成功しなかったことをここに記します。

（理学院・理学研究院）

Emallia Conference 2018口頭発表の様子

Emallia Conference初の試みとなるポスター発表の様子

2日目終了後に開催された懇親会の様子

医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では，９月25日（火）に，学術交流会館講堂において，この１年間に系統解剖，病理解剖及び法医解剖のため，本学に尊い御遺体を捧げられ，その御遺体を通して病因・病態の究明に，あるいは人体構造機能の理解に，貴重な御教示を遺された579名の御霊の御冥福をお祈りするため，慰霊式を執り行いました。

慰霊式には，御遺族，名和豊春総長，理事，部局長，教職員，学生，学外関係者等約400名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後，参列者全員による黙祷を行い，次いで，吉岡充弘医学部長及び八若保孝歯学部長から，御霊の御意志に報いるためにも一層の教育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞がありました。その後，参列者による献花を行い，最後に八若歯学部長から謝辞があり，慰霊式は厳粛のうちに終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部，
歯学院・歯学研究院・歯学部）

献花をする名和総長

追悼の辞を述べる吉岡医学部長

追悼の辞を述べる八若歯学部長

謝辞を述べる八若歯学部長

工学研究院で寄附分野「循環・エネルギー技術システム分野」の第4回シンポジウムを開催

9月4日（火），学術交流会館講堂において，寄附分野「循環・エネルギー技術システム分野」の第4回シンポジウムを開催し，3年間にわたる研究成果の発表を行いました。本寄附分野は，平成27年10月に，社会問題を解決して社会に貢献する技術システムとして，バイオマスを中心とした安全・安心な再生可能エネルギーの普及化促進技術システムと，廃棄物のリサイクル・処理技術の効率化と採算性向上を目指した技術システムを研究開発することを目的に，日本を代表する企業10社（いであ株式会社，岩田地崎建設株式会社，有限会社エネルギーシステム研究所，応用地質株式会社，小川建設工業株式会社，鹿島建設株式会社，大成建設株式会社，日立造船株式会社，八千代エンジニヤリング株式会社，日立セメント株式会社）からのご寄附により，工学研究院環境創生工学部門内に設立されたものです。

第4回シンポジウムでは，皆川一志理事・副学長，増田隆夫工学研究院長から挨拶があった後，本寄附分野の古市徹客員教授からシンポジウムの主旨説明等がありました。続いて，大迫政浩国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター長から「地域における多様な価値づくり～地域プランニング研究の役割を含めて～」と題して基調講演が行われ，引き続き，本寄附分野の落合知特任助教，木村浩司岩田地崎建設株式会社経営企画室経営企画課長，宇佐見貞彦八千代エンジニヤリング株式会社事業統括本部国内事業部・上級フェロー，島田克也いであ株式会社国土環境研究所長の4名から，3年間の研究成果の報告が行われました。

最後に，本寄附分野の世話人である石井一英工学研究院教授がコーディネーターを務め，上記5名の講演者による総合討論が行われ，本寄附分野のまとめと，10月1日から新たに同部門に開設される寄附分野「バイオマスコミュニティプランニング分野」における活動内容について多面的な議論が交わされました。

本シンポジウムには，総勢100名以上の参加があり，盛会のうちに終了しました。また，本シンポジウム終了後には意見交換会が開催され，和やかな歓談のひとときを過ごし，有意義な時間となりました。

（工学研究院）

大迫氏による基調講演

会場の様子

「防災技術イノベーション研究会　Robust BOSAIシンポジウム」を開催

９月25日（火），フロンティア応用科学研究棟鈴木章ホール（レクチャーホール）において，「防災技術イノベーション研究会　Robust BOSAIシンポジウム」を開催しました。

近年の気象変動により，農林水産業の生産現場は，従来の方法では対応が不可能な甚大な自然災害の危険に脅かされているため，自然災害に対する生産現場のロバスト化（強固にすること）の重要性が増しています。この状況を踏まえ，本学では新たに防災技術イノベーション研究会を発足し，Society5.0を目指した高度な技術やノウハウの共有，新たな研究開発，防災教育と人材育成までを実現するための産官学民コンソーシアム設立を目指すこととなりました。本学は今回のシンポジウムをそのキックオフイベントと位置付け，産・官・学の領域から専門家を招き，参加者と共に「防災による農林水産業のロバスト化」について考えました。

本シンポジウムは，増田隆夫工学研究院長の開会挨拶があった後，野口伸農学研究院副研究院長の趣旨説明があり，引き続き，清水康行工学研究院教授による基調講演が行われました。

防災技術に関する「産・官」からの話題提供として，吉田郁夫清水建設株式会社フロンティア開発室海洋開発部副部長，山形巧哉森町総務課情報管理係長，丹治和博日本気象協会防災ソリューション事業部技術統括，今日出人工学研究院特任教授（前北海道開発局長）の４名による講演がありました。

後半では，防災技術に関する「学」からの話題提供として，戸谷剛工学研究院教授，安成哲平工学研究院助教，高木力水産科学研究院教授，古市剛久農学研究院学術研究員の４名による講演がありました。

続いて，瀬戸口剛工学研究院副研究院長がコーディネーターを務め，泉典洋工学研究院教授と話題提供者８名によるパネルディスカッションが行われました。「天気予報の予測技術を高めるだけではなく，気象現象が市民生活に与える影響を具体的に提示することが必要である」「技術を実際に使うユーザーの観点が抜けている。研究者は，自治体が災害時にどのようなプロセスを経て避難勧告・指示を出しているのか知らずに研究している。避難指示の決定の際，どのようなデータをどのように使っているのか知らないと，実際に役立つ物はできないと思う」など，活発な意見交換が行われました。

最後に，西井準治理事・副学長の挨拶で閉会となりました。本フォーラムには，行政機関，農林水産業の関連団体，民間企業の関係者，一般市民など約170名が参加し，農林水産現場における防災への関心の高さが窺われました。

シンポジウム後は交流会が開催され，参加者の親睦を深めるなど，非常に有意義な時間となりました。

（工学研究院）

増田工学研究院長による開会挨拶

野口農学研究院副研究院長による趣旨説明

清水工学研究院教授による基調講演

パネルディスカッションの様子

コーディネーターを務める瀬戸口工学研究院副研究院長

会場の様子

西井理事・副学長による閉会挨拶

農学研究院で平成30年度第2回FD研修会を開催

農学研究院では，平成30年度第２回FD研修会を「世界大学ランキングの見方（ルール解説）と使い方 －貴学における活用アイディアについて－」と題して，９月25日（火）に農学研究院大講堂において開催し，教員36名，事務職員３名の計39名が受講しました。

農学研究院の西邑隆徳副研究院長による開会の挨拶の後，株式会社進研アドの小泉隼人氏，株式会社ベネッセi-キャリアの上ヶ島純一氏から約１時間30分に渡ってお話をいただきました。

イギリスのTES Global社によるTHE（Times Higher Education）世界大学ランキングは，大学評価の指標として現在広く活用されています。このランキングには世界ランキングの他に，そのアジア版と日本版があり，それぞれについての見方と活用の仕方，特に本学における具体的な活用アイディアについて，小泉氏からお話をいただきました。世界大学ランキングと世界大学ランキング日本版では評価の指標や指標の重み付けが異なっていて，前者では大学の大学院における研究力により重点が置かれているのに対し，後者では学部における教育力により重点が置かれているため，その点をよく理解してランキング順位を受け止める必要があることをご説明いただきました。特に世界大学ランキング日本版の方は，高校教員による評判調査の結果が反映されていることもあって，高校の進路指導における進路選択の材料の一つとしてすでに定着しているというお話もありました。後半では上ヶ島氏から，教育力のような定量化しにくいものをいかに可視化するかを試みた例についてもご紹介いただきました。

講演を通して，こうした世界大学ランキングを高校生や留学生が進学先，留学先を選ぶ際にどのように利用しているのかよく理解した上でその活用を図ることが重要で，ランキングが低い場合でも，それが大学の実力を示しているのか，あるいはアピール力の問題なのかをよく分析し，改善点を見出して行く必要があること，また，改善点だけではなく，世界大学ランキングは本学の強みが何であるのかなどを自覚する手段であることも学ぶことができました。

研修会の最後には，参加者から多数の質問が寄せられ，２名の講演者と共に参加いただいた株式会社進研アドの安永研司氏からも，質問に対する分かりやすく有益な追加説明をいただきました。

講演いただいた小泉氏，上ヶ島氏，質問へ追加説明いただいた安永氏には，詳細なデータに基づき，とても興味深く有益なお話をいただきました。この場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。

（農学研究院）

西邑副研究院長による開会挨拶

小泉氏による講演

上ヶ島氏による講演

平成30年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス!」が終了

水産学部では８月６日（月）から９月１日（土）の期間で公開講座「海をまるごとサイエンス！」を開講し，全５回で延べ276名が参加しました。

水産学部で行っている「海・川・湖を舞台とした総合的な理科（生物学，化学，物理学，地学）」の研究について本学部の教員が講義を行い，受講者からは毎回多くの質問が寄せられました。

今年は，キャンパス・コンソーシアム函館主催の「函館学」に参加したこともあり，昨年に比べ多くの市民の方が出席しました。また，昨年に引き続きオープンキャンパスと同時開催し，水産学部の受験に関心のある高校生及び保護者も受講しました。今後も，水産学への興味を多くの方々に持っていただけるような講座を開催していく予定です。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

講演題目と講師

第１回 「出動！イルカ・クジラ110番～海岸線3066kmから視えた寄鯨の科学～」
水産科学研究院　教授　松石　隆

第２回 「ウナギ増殖研究の歴史」
水産科学研究院　准教授　井尻成保

第３回 「海の巨大な渦：海の中にも高気圧と低気圧がある」
水産科学研究院　准教授　上野洋路

第４回 「北極のプランクトンと環境変動」
水産科学研究院　助教　松野孝平

第５回 「紅い海藻を科学する」
水産科学研究院　教授　岸村栄毅

講義を行う井尻准教授

研究対象の海藻「ダルス」を紹介する岸村教授

藤森康澄副研究院長から修了証書の授与

幅広い年齢層の受講生が参加した会場の様子

平成30年度地球環境科学研究院公開講座「化学物質から読み解く過去・現在・未来の地球環境」が終了

地球環境科学研究院では，平成30年度公開講座「化学物質から読み解く過去・現在・未来の地球環境」を８月21日（火）から９月25日（火）まで全６回開講し，40歳から80歳代までの55人が受講しました。

温暖化，オゾン層破壊，大気・水質汚染などの地球環境問題が危惧されていますが，将来の地球環境を守る上では，これまでの環境状況を正しく認識し，変化の要因や機構を理解する必要があります。この公開講座では，地球環境に重要な影響を及ぼす化学物質の性質や挙動について，６人の研究者が最新の研究成果を分かりやすく説明し，受講者からも非常に好評のうちに終了となりました。

最終回の講義終了後，全６回の講義のうち４回以上出席した47人の受講者に修了証書が授与されました。

（地球環境科学研究院）

大原雅研究院長による開講挨拶

入野智久助教による講義（第１回）

国際広報メディア・観光学院が英国シェフィールド大学及び豪州メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催

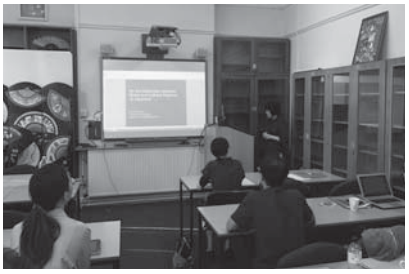
国際広報メディア・観光学院では，９月３日（月）から７日（金）まで英国のシェフィールド大学において，９月17日（月）から19日（水）まで豪州のメルボルン大学において，それぞれ「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project/TLLP）・スタディ・ウィーク」を開催しました。

TLLPとは，国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院，英国・シェフィールド大学及びリーズ大学，フィンランド・ヘルシンキ大学，オーストラリア・メルボルン大学の間で行われている研究教育の交流プログラムです。このプロジェクトの目的は，①学生・教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築，②研究遂行（データ収集，インタビュー，研究発表，研究討論）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得にあります。具体的な教育プログラムの内容は，両大学の大学院生同士がペアを組み，互いに相手の研究のサポートをするタンデム・ラーニング，またその進展をウェブ上で支援する教員のアドバイス・システムが中心です。さらに，相互に相手の大学を訪問して研究発表や教育交流を行う「TLLPスタディ・ウィーク」を年に１回開催しています。

本年度のスタディ・ウィークは，英国のシェフィールド大学で，海外ラーニング・サテライト事業として開催されると同時に，豪州のメルボルン大学でも開催され，初めての複数開催となりました。本学院からは，それぞれの大学へ各７名（大学院生４名，教員３名）が参加しました。セッションでは，学生による研究発表，教員による講義，ワークショップなど，様々な研究・教育交流が行われました。TLLPの趣旨に基づき，本学の学生は英語で，シェフィールド大学及びメルボルン大学の学生は日本語で研究発表を行いました。数か月にわたり，発表要旨，パワーポイント，発表原稿などについてお互いの研究をネット上で研鑽してきた成果が，スタディ・ウィークで発揮されました。また，期間中にはシェフィールド大学，メルボルン大学ともに，日本学の学会・国際会議が開催されており，このため今回のスタディ・ウィークでは，２大学間交流にとどまらず，広く世界の日本研究者との研究交流を行うことができました。

2014年以降開催されてきたTLLPスタディ・ウィークも５年目を迎えました。来年は本学での開催が予定されており，複数の大学からの教員と院生が集う予定です。今後も，国際社会を舞台に活躍する研究者を育成することを目指し，海外諸大学との教育・研究交流を続けていきます。

（国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院）



シェフィールド大学での学生発表

メルボルン大学での金成玟准教授による講演

「酪農から見えてくる北大観光の未来」を開催

9月18日（火），「酪農から見えてくる北大観光の未来」を開催し，本学内外から，酪農や観光に見識のある28名が集いました。

はじめに，重要文化財である札幌農学校第２農場を見学しました。案内役は，本学名誉教授の近藤誠司氏とボランティアの大山圭也氏です。明治10年に造られたモデルバーン（耕馬，産室，雑牛追込所）では，乳牛の飼料はすべて乾草で賄われていたため，１階は牛床で，２階は乾草収納庫になっています。乾草庫から床に開けた穴を通して，牛床へ乾草を投下するため，搾乳や糞尿処理が一度に行える対尻式で飼育されていたそうです。その他にも牛舎の換気システムや，サイロなどについて説明がありました。

続いて，北方生物圏フィールド科学センターの三谷朋弘助教の案内により，40頭の乳牛が飼育されている，第１農場を見学しました。第１農場では，乳牛の糞尿をバイオガスプラントで処理しています。通常は，数日間発酵させたものを肥料にすることが多いのですが，第１農場は都心に位置しているため，においの問題などから，バイオガスプラントを採用しています。糞尿をメタン発酵させることにより，においの元となるメタンガスを取り除き，残った液体を肥料として使用します。８年前より，化学肥料ゼロで牧草地を維持しており，メタンガスは発酵を手助けするために活用しています。また，最近では，乳牛の飼料を海外からの輸入品で賄っている農場が多いのですが，第１農場では，夏は牧草，冬は夏に貯蔵したもので賄い，できる限り本学で獲れた飼料で牛乳を搾るよう工夫しています。

午後は，座談会が行われました。観光学高等研究センターの木村宏特任教授の進行のもと，近藤名誉教授，三谷助教をはじめ，小山邦武氏（元長野県飯山市長，現信州味噌株式会社取締役会長），尾田栄章氏（元建設省河川局長，「行基さん大感謝祭」実行委員長），和田康広氏（札幌市観光・MICE推進部観光魅力づくり担当課長）が，酪農と観光，それぞれの視点から語り合いました。和田氏からは，本学に観光で訪れる人も多く，海外から年間50万人もの観光客が訪れていることが語られ，「その土地の文化や歴史に触れたり，実際に何かを体験できたり，訪れた場所で学べることが今後の観光のポイントなのでは」との話がありました。尾田氏は，「札幌市の観光を今後どうすべきか，その中での北大の位置付けや，北大の酪農をどう活かしていくかは，官ではなく民である北大自身が考えること。その上で，官と上手く連携していくことが重要だと思います」と話します。本学のOBでもある小山氏からは，「北大の魅力を知ってもらうためには，重要文化財である第２農場は勿論，都心の異空間である第１農場の価値を，まずは北大の人々，そして，札幌市民全体で理解・共有していくことが不可欠ではないでしょうか」との意見をいただきました。こうした発言を受けて，「農場に赴任した当初は，外部の人を寄せ付けないようにしていました。しかし，最近では，ここの価値を理解し始め，それを伝えるにはどうしたら良いか模索するようになりました」と三谷助教は語りました。三谷助教は，北大牛乳の販売にも力を注いでいます。近藤氏もまた，「札幌の憩いの場として知ってもらえるよう，前向きに考えたいです」と話していました。参加者からも様々な意見が飛び交い，観光のパワーを上手く使いこなしていくための仕組み作りの重要性などについても語られました。

都心に存在する，北大農場。それは，長い歴史の中で守られてきた空間であり，学びの場です。教育・研究と観光の共存の道を探りながら，その価値をいかに伝えていくか，今一度考え直すきっかけになりました。

（観光学高等研究センター）

モデルバーンを見学する参加者

モデルバーンの解説をする近藤名誉教授

牛のレプリカで再現される対尻式

第１農場を案内する三谷助教

まさに都心の異空間「第１農場」

座談会の様子

電子科学研究所で「サイエンスレクチャー2018」を開催

電子科学研究所では，読売新聞と連携し，８月３日（金）に「サイエンスレクチャー2018」を同研究所１階会議室で開催しました。中高生を中心に参加者51人が，日頃，使用しているスマートフォンやタブレット端末をモバイル顕微鏡（スマホ顕微鏡）にして，肉眼では見ることの出来ないミクロの世界を楽しみました。

講座では，スマートフォンやタブレット端末に装着する３種類のモバイル顕微鏡を使用して，まず「18穀ごはんゲーム」から始まりました。スクリーンに映し出された穀物を探すのは，フロントカメラに装着したモバイル顕微鏡で，液晶画面に30倍でくっきりと映し出されると，肉眼で見る実物との違いに，「何だこれ！」「黒ごま発見」などの声が上がりました。続いて，数十種類の微小海産物を集めたちりめんじゃこを使ったゲームでは，かにやタコ，大きく口がさけたカタクチイワシが確認でき，まれにタツノオトシゴも発見されました。バックカメラに装着した30倍のモバイル顕微鏡は，見たいものに押し当てるだけで液晶画面に映し出され，画面をピンチアウトすると，より大きく見えます。最後には，LEDライトと一体化し，ピント合わせが可能なフロントカメラに装着した180倍のモバイル顕微鏡で，ゾウリムシやミジンコを観察し，シャーレの上で動き回る姿が液晶画面に映し出されると，各テーブルから驚きの声が挙がりました。

この他，高度なレーザー顕微鏡などを備えた「ニコンイメージングセンター」も見学し，最先端の顕微鏡でプランクトンを観察すると，参加者は夢中で顕微鏡を覗き込んでいました。

参加者からは「モバイル顕微鏡は扱いやすく，記録もしやすい。これを使えば観察が進む」などの声や，参加者の保護者からは「頭を働かせている様子が感じられ，親としてのうれしさを感じる貴重な体験でした」などの意見をいただきました。多くの反響を呼ぶことができた本講座の実施結果を，次回のサイエンスレクチャーに活かしたいと思います。

（電子科学研究所）

ゾウリムシ，ミジンコの観察

ニコンイメージングセンターでの観察

北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも掘り」を開催

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では，9月8日（土）に学内教職員を対象とした「じゃがいも掘り」を開催しました。当初は9月1日（土）を予定していましたが，連日の悪天候により1週間延期しての開催となりました。

9月6日（木）に発生した平成30年北海道胆振東部地震により，断水，停電，交通機関の混乱が続いていたため，開催を見送ることも検討しましたが，参加を希望する声が多くあったため，当日にSNSで告知したところ，抽選で選ばれた約120組の教職員が参加されました。

会場は，ポプラ並木のすぐそばにある第一農場です。秋風が心地よく吹く穏やかな天候の中，多くの親子連れが訪れ，土の中からじゃがいもを掘り起こすと，あちらこちらで歓声が上がっていました。子供たちは泥だらけになりながらも自らの手でじゃがいもを掘り起こし，大きさを競ったり，記念撮影をしたりなど，家族との楽しいひとときを過ごしていました。また，同時に「枝豆狩り」も開催しました。これは地震のために収穫できなかった枝豆畑を急きょ開放したものです。参加者は，袋いっぱいに枝豆を詰め，満足そうに会場を後にしていました。

来場者からは，「道内の多くのイベントが中止している中，開催していただきありがとうございました。子供たちも大変喜んでいました」「食料品が十分に手に入らない状態だったので助かりました。大切にいただきます」など，生産者にとって嬉しい声が聞かれました。

生物生産研究農場では，体験的な農場実習のカリキュラムの中で，農産物の販売を視野に入れたじゃがいもの育成をプログラムに取り入れています。こうして育成したじゃがいもを実際に販売することによって，農場の教育・研究活動を知っていただき，学内の方々と交流を進めたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）

じゃがいも掘り会場

掘り起こしたじゃがいも

枝豆を収穫する参加者

袋いっぱいに枝豆を詰めた子供たち

北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催

北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション・臼尻水産実験所，七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所は，文部科学省教育関係共同利用拠点（「食糧基地，北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点」）に認定されています。その取り組みの一環として，他大学の学生が参加できる公開水産科学実習「バイオロギング実習」を，９月３日（月）～６日（木）に開催しました。

開催地は，臼尻水産実験所，七飯淡水実験所及び函館市国際水産・海洋総合研究センターで，全国から13名の学生が参加しました（うち本学５名）。実習では，ウミガメ類や魚類にバイオロギング機器を装着して海生生物の行動を追跡する手法を学び，水産生物の資源動態を把握する必要性について理解を深めました。内容は，バイオロギング手法を用いた水産生物の資源動態に関する講義と装着機器の事前準備から始まり，生物への機器の装着，機器装着生物の行動観察，データ解析とプレゼン発表及び海洋生物の生態とバイオロギングに関する講義などが行われました。また，実習中に混獲されたウミガメの調査に同行し，バイオロギング研究を実際に体験しました。実習最終日は，６日（木）未明に発生した平成30年北海道胆振東部地震やその後の停電の影響により，急遽スケジュールの変更を余儀なくされましたが，無事に終了することができました。

参加学生のアンケートには，「非常に興味深い内容で，充実した実習だった」「地震が来たのは残念だったが，それも含めいい思い出になった」「自分の興味がある分野について理解を深め，解析方法やロガーの取り付け方を学ぶことができて良かった」など好意的な回答が数多く寄せられ，実習は盛況のうちに終了しました。

文部科学省教育関係共同利用拠点における実習は，今年度末に他の３プログラムが予定され，来年も継続されます。ご興味のある方は当事業のホームページをご覧ください。

◆http://www.fsc.hokudai.ac.jp/suisan-kyoten/index.html

（北方生物圏フィールド科学センター）

講義の様子

ウミガメへのバイオロギング機器取り付けの様子

実習中に混獲されたウミガメの調査見学

データ解析と発表準備の様子

実習生によるスライド発表

集合写真

北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林における台風被害について

北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林は，本年８月23日（木）に日本列島へ上陸した台風20号により，設立以来最大の壊滅的ともいえる被害を受けました。

台風20号は，和歌山研究林が位置する古座川町平井地区とその周辺地域に集中豪雨をもたらし，隣接する同町西川地区のアメダスでは，１日の降水量399.5mm，１時間当たりの最大降水量89.5mm（いずれも同地点の観測史上１位）を記録しました。この豪雨は，研究林内各所に流れる複数の河川で急激な増水と土石流を発生させ，いくつもの林道や倉庫，軌道モノレールを押し流しました。職員にとって顔を覆いたくなるほどの甚大な被害でした。それだけでなく，研究林内へ唯一通じる国道371号線も寸断され，現在のところ研究林内へは徒歩でしかアクセスできません。国道が復旧するまでは，重機等を使用した大がかりな復旧作業もできません。

このような深刻な状況の中，幸いにも，国の有形文化財指定を受けた木造洋館の研究林庁舎とその周辺設備は無事だったこともあり，研究林庁舎周辺から手作業で復旧を進めています。さらに，「徒歩でのみ入林可」「研究林スタッフが同行して転落等に関する安全対策を実施」等の条件付きで，でき得る限りの研究教育の需要に対応しています。完全復旧までは遥か遠い道のりかもしれませんが，少しずつでも進めていく前向きな姿勢を忘れず，これからも取り組んでいきたいと考えています。野外調査や森林教育のフィールド提供の場として，これまで同様，今後もご活用いただけますと幸いです。

（北方生物圏フィールド科学センター）

土石流で河川の流路が変わり崩壊した林道・橋・モノレール

洪水で擁壁と路肩が大きく崩れた林道

倒木と土石流で折れ曲がったモノレール軌道

路肩が大きく崩れて寸断された国道371号線

附属図書館で「柴田元幸トークライブ~アメリカ文学200年の魅力~」を開催

9月14日（金），図書館大会議室において，アメリカ文学研究家，翻訳家として著名な柴田元幸東京大学名誉教授によるイベントを開催しました。「柴田元幸トークライブ〜アメリカ文学200年の魅力〜」と題したこの企画は，北海道ブックフェス実行委員会と共催（協力：河出書房新社）し，トークライブのほか，柴田氏の著作物の販売や購入者向けのサイン会も行いました。

本学の学生，教職員のほか，一般市民も含め74名の参加があり，会場となった本館大会議室は満員となりました。トークライブでは，アメリカ文学の魅力について，J. D. Salingerの「the Catcher in the Rye」とMark Twainの「Adventures of Huckleberry Finn」との比較やアメリカ文学における「私」の在り方という観点から，米国文学史上著名な作品を例に解説していただきました。

学生や教職員が主な対象ということで，内容はアカデミックなものではありましたが，先生の軽妙なお話しぶりに聴衆は引き込まれていた様子でした。

アンケートには「アメリカの自己，文学，社会の関係を分かりやすく整理してもらえた」「英米文学の水面下の精神性の様なものがわかりやすく説明されていてよかった」「思いがけずリアル翻訳教室体験ができてとても感動しました」といったコメントが並び，内容の濃い時間を過ごせたことが伺えます。

また，このイベントに合わせ，本館，北図書館，水産学部図書室では柴田氏の著作や翻訳書等の展示を行いました。こちらも多くの学生の目に触れ，学生の読書欲がかき立てられた様子でした。

（附属図書館）

ホワイトボードを使って説明する柴田氏

各図書館での関連展示の様子（左から本館，北図書館，水産学部図書館）

附属図書館本館に「論文の書き方コーナー」を新設

附属図書館本館では，9月28日（金）から2階オープンエリアに「論文の書き方コーナー」を新設しました。需要の大きい論文執筆関連の資料を一箇所に集めて利便性を向上させることで，より多くの時間を研究・学習に割り当てていただこうという狙いです。

文章作法からレポート・卒論，学術論文の書き方，さらにはプレゼンテーションの仕方まで内容別に配架しています。

2階オープンエリアは移動可能な机・椅子・ホワイトボードが設置され，PCを持ち込んで数人でディスカッションしながら研究・学習を行うことができるスペースです。今回，論文の書き方コーナーが新設されたことで，オープンエリアで論文執筆中あるいは学会発表の準備中に，関連資料をすぐ手に取ることができるようになりました。

貸出も可能であり，資料を研究室や自宅で利用することもできます。今まで各フロアに散在していた図書を，入館ゲートを入ってすぐの場所に集めたため，「ちょっと寄って借りていく」利便性が向上しました。

現在，和書150冊・洋書50冊を配架していますが，今後も新着資料を中心に随時追加していく予定です。

（附属図書館）

「論文の書き方」コーナー

和洋合わせて200冊を配架

故金田弘夫博士の旧蔵資料を大学文書館で受贈

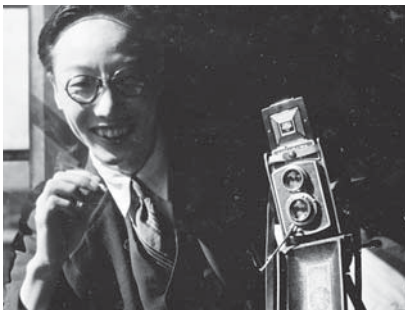
９月21日（金），大学文書館では，文学部教授を務めた故金田弘夫博士の旧蔵資料５箱を，ご夫人である金田ケイ子氏からご寄贈いただきました。

金田弘夫博士は，1921（大正10）年札幌に生まれ，札幌商業学校（現北海学園札幌高等学校）を卒業後，関西大学に進学し，1943（昭和18）９月に法文学部政治学科を卒業しました。同年10月に北海道帝国大学農学部農業経済学科に入学し，1946年９月に卒業，10月から大学院特別研究生となりました。1948年12月以降，農学部助手・講師・助教授を務め，1962年２月に「開拓農家の連帯性尺度化による調査と分析」において農学博士号を取得し，1976年４月には文学部教授に就任しました。金田博士は農村社会学を専攻し，地域における農家の連帯性，農村の都市化による変性などをテーマとして研究をしました。また，1977年有珠山噴火，1982年浦河沖地震，1983年の北海道南西沖地震における奥尻島への津波などの災害を調査し，地域における防災問題について提言を行いました。1976年には北大百周年記念映画『大いなる楡』の制作委員も務められ，1984年に北海道大学を退職されています。

この度，ご寄贈いただいた資料は，学生時代の受講ノート，教員時代の講義ノート・自筆原稿・研究記録フィルム，写真アルバムなどです。金田博士は若いころからカメラ撮影を趣味としており，戦後期の大学構内の風景や，生き生きとした学生の様子など，非常に優れたアングルの写真を撮影し，残しています。

大学文書館では，ご寄贈いただいた資料を整理し適切に保存しながら，展示や閲覧利用等を通じて紹介して参ります。

（大学文書館）


金田弘夫博士

講義ノート

クラーク像（1951年）

一般教養部（1951年）

古河講堂（1951年頃）

工学部（1952年）

▌お知らせ

「キャンパス復興支援」について

平成30年９月に北海道を襲った台風第21号及び，北海道胆振東部地震の後，本学同窓生の皆様をはじめ多くの方々から，本学学生・キャンパス・施設に関するご心配の声を頂戴しております。

本学は，幸いにも人命に係る被害や，建物が倒壊するなどの甚大な被害に見舞われることはございませんでしたが，施設等を中心に影響が出ております。

皆様からの声を受け，この度，「北大フロンティア基金」に「キャンパス復興支援」を設置し，本学を応援して頂く方々と共に一致団結して復旧・復興を目指したいと考えております。

このご寄附により，被災学生等への支援やキャンパス内教育・研究環境の復旧・復興のための資金として有効に活用させていただきたいと考えております。

ご寄附の際は寄附目的について「特定資金」をご選択の上，「キャンパス復興支援」とご記入ください。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

（総務企画部広報課）

▌博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士91人，及び本学に学位論文を提出して，その審査，試験等に合格した論文博士７人に対する学位記授与式を，９月25日（火）に学術交流会館第一会議室において挙行しました。

式では名和豊春総長から各研究科等の総代へ学位記が手渡され，最後は北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。９月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）

学位記授与の様子

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（文学）	石原 真衣（いしはら まい）	〈沈黙〉のオートエスノグラフィー－「サイレント・アイヌ」におけるサバルタン化のプロセスとポストコロニアル状況－ 主査：教授　小田　博志
博士（学術）	大武 由紀子（おおたけ ゆきこ）	アヴァンギャルド芸術家グスタフ・クルーツィス－生産主義理論とその具象－ 主査：教授　宇山　智彦
博士（文学）	石垣 佳奈子（いしがき かなこ）	三巻本『枕草子』の研究 主査：教授　後藤　康文
	趙 陽（チョウ ヨウ）	エドワード・ヤン映画研究－映画の画面における運動の視点から－ 主査：教授　応　雄
	裴 明文（ハイ メイブン）	日韓語の副詞終了文に関する対照研究 主査：准教授　李　連珠
	髙橋 文代（たかはし ふみよ）	色彩感情と顔色の関連性－表情と感情語からイメージされる色－ 主査：教授　川端　康弘
	田中 一典（たなか かずのり）	北海道における希少種ニホンザリガニの保全に関する地域生態学的研究 主査：教授　池田　透
博士（法学）	程 坦（テイ タン）	代替取引義務（損害軽減義務）による履行請求権の限界づけ－履行遅滞の場合についての比較法的考察－ 主査：教授　曽野　裕夫
博士（経営学）	高橋 史早（たかはし ふみさ）	顧客価値尺度の開発と検証 主査：教授　坂川　裕司
博士（医学）	梅村 真知子（うめむら まちこ）	B型慢性肝炎患者における核酸アナログ長期治療によるHBs抗原減少効果の検討 主査：教授　本間　明宏
	岸本 亜由子（きしもと あゆこ）	マウスの眼球硝子体血管の特殊性に関する研究 主査：教授　佐々木　秀直
	田畑 佑希子（たばた ゆきこ）	DJ-1の浸潤性胆管癌に対するバイオマーカーとしての有効性に関する検討 主査：教授　武冨　紹信

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	DORCAS AKUBA-MUHYIA ANNAN	Tumor endothelial cells survive in lactic acidosis via the activity of pH regulators （乳酸アシドーシス環境におけるpH調節機構を介した腫瘍血管内皮細胞の生存） 主査：教授　山下　啓子
	野口淳史	強皮症における心臓MRIを用いた肺動脈性肺高血圧症の病態評価に関する研究 主査：教授　佐邊　壽孝
	村中徹人	中等度催吐性化学療法を受ける消化器癌患者における血漿5-HIAA/サブスタンスPの濃度推移と悪心/嘔吐との関連に関する多施設共同前向き研究 主査：教授　秋田　弘俊
博士（獣医学）	Jednipit BORTHONG	Comprehensive analysis of pathogenic bacteria in environmental samples using metagenomic approaches （メタゲノム解析による環境中の病原性バクテリアの総合解析） 主査：教授　大橋　和彦
	Nan Aye Thida OO	Characterization of streptomycin and pyrazinamide resistance in clinical multidrug-resistant *Mycobacterium tuberculosis* isolates from Myanmar （ミャンマー由来臨床分離多剤耐性結核菌株のストレプトマイシン並びにピラジナミド耐性に関する研究） 主査：教授　鈴木　定彦
	Khoirun Nisa	Application of contrast-enhanced ultrasonography to diagnose and evaluate chronic intestinal diseases in dogs （犬の慢性腸疾患の診断と評価における造影超音波検査の応用） 主査：教授　滝口　満喜
	Lai Lai San	Insight into the Beijing genotype *Mycobacterium tuberculosis* clinical isolates in Myanmar （ミャンマーにおける北京型結核菌臨床分離株に関する研究） 主査：教授　鈴木　定彦
博士（情報科学）	高瀬朝海	ニューラルネットワークの効果的な訓練のための探索と収束の制御 主査：教授　栗原　正仁
博士（工学）	福井浩介	Analog Quantum Computation and Communication with Digitized Continuous Variables （連続量状態を用いたアナログ量子情報処理に関する研究） 主査：准教授　岡本　淳
	Mahmoud Rasly Khoudary Eldesouky	Systematic investigations of transient response of nuclear spins in GaAs under the presence of polarized electron spins （電子スピン偏極状態下におけるGaAs中核スピンの過渡応答特性） 主査：教授　髙橋　庸夫
	胡間遼	デジタル信号処理技術を用いた光アクセスシステムに関する研究 主査：客員教授　可児　淳一
博士（情報科学）	脇坂英佑	プラント改修向けas-builtモデル構築のための地上型レーザスキャナの最適配置計画 主査：教授　金井　理
博士（水産科学）	黒田実加	小型ハクジラ類の頭部発音器官におけるクリックスの伝搬経路と周波数帯域決定過程の音響学的検討 主査：教授　綿貫　豊
	流石啓司	産業廃棄物の有効利用に向けた廃棄養殖ノリからの高品質寒天の抽出と応用に関する研究 主査：教授　佐伯　宏樹
博士（環境科学）	Sharmin Shishir	Detecting the mechanisms of spatio-temporal changes in land use and endangered ecosystems induced by urban growth （都市成長に伴う土地利用と絶滅危惧生態系の時空的変化機構の検出） 主査：教授　露崎　史朗
	Md. Mostafizur Rahman	Study on the efficacy of dietary compounds to detoxify toxic metals *in vitro* （試験管内で毒性金属を解毒するための食餌中化合物の有効性に関する研究） 主査：准教授　藏崎　正明
	吉村暢彦	空間情報を用いた人の行動分析に関する研究 主査：教授　山中　康裕

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（環境科学）	ブイ チ グォク Bui Thi Ngoc オアン Oanh	Dissolved methane distribution in seawater and its controlling factors in the polar regions （極域における海水中メタンの分布とその制限因子に関する研究） 主査：准教授　亀山　宗彦
	カブレラ オスピノ Cabrera Ospino, メロディ クリスティン Melody Christine	Phylogeny and diversity of genes for poorly characterized type of arsenite oxidase involved in anaerobic arsenic oxidation （嫌気的ヒ素酸化に関わる亜ヒ酸酸化酵素遺伝子の系統及び多様性） 主査：教授　福井　学
	あいばら 相原　いづみ	Boron-dependent posttranscriptional regulation of a borate transporter *BOR1* and its physiological significance in *Arabidopsis thaliana* （シロイヌナズナにおけるホウ酸輸送体*BOR1*のホウ素濃度依存的な転写後制御とその生理的意義） 主査：准教授　三輪　京子
	シェハタ モハメド Shehata Mohamed	Using recombinant *E. coli* displaying surface heavy metal binding proteins for removal of Pb^{2+} from contaminated water （汚染水からの鉛除去のための表在性重金属結合タンパク質提示組換え大腸菌の利用） 主査：准教授　山崎　健一
	すずき しょうた 鈴木　将太	Evolutionary ecological study on lineage longevity of *Hexagrammos* hemiclonal hybrids: two-way backcrossing, recombination through occasional generation changes and synthesis of renewed hemiclone （アイナメ属半クローン雑種の系統寿命に関する進化生態学的研究：二方向の戻し交配，間欠的組換え世代の出現と半クローン世代の更新） 主査：准教授　宗原　弘幸
	みよし こうじ 三好　晃治	地まきホタテガイ漁業における被食減耗軽減に関する研究 主査：教授　宮下　和士
博士（理学）	こまごえ たろう 駒越　太郎	Geochemical and microstructural approaches for high resolution reconstruction of paleoclimate and paleoecology using giant calm shells （シャコガイ殻を用いた高解像度古気候・古生態復元への地球化学および微細構造的アプローチ） 主査：教授　鈴木　徳行
	シャムシディン 夏米西丁・ アブトゥリィム 阿不都热依木	Molecular evolutionary studies on major histocompatibility complex and amylase genes in Eurasian badgers, genus *Meles*（Mammalia, Carnivora, Mustelidae） （ユーラシアアナグマ*Meles*属における主要組織適合遺伝子複合体とアミラーゼ遺伝子に関する分子進化学的研究） 主査：教授　増田　隆一
	と タオウリン ヨウコ 涂　道霖	Geodetic and seismological study of slow earthquakes and inter-plate coupling in the Ryukyu subduction zone （琉球沈み込み帯におけるスロー地震およびプレート間カップリングに関する測地学的および地震学的研究） 主査：教授　日置　幸介
	ムハマド Muhammad ウスマン Usman	Saptio-temporal velocity variability of Eastern Karakoram Glaciers observed by ALOS-1/2 data （ALOS1/2データで観測された東カラコルム山脈の氷河流動速度の時空間変動） 主査：教授　古屋　正人
博士（農学）	たかだ しゅういち 鷹田　秀一	カリウム施肥，リン酸施肥および栽植密度がテンサイの収量および品質に及ぼす影響と土壌分析値との関連について 主査：准教授　渡部　敏裕
	たかはし さちよ 高橋　祥世	女性部の参画による農協の総合的事業展開の可能性－北海道を対象として－ 主査：教授　坂下　明彦
	たむら げんじ 田村　源治	北海道における土地資本形成とその効果に関する研究 主査：教授　近藤　巧
	ルオ ウェイフェン Luo WeiFeng	Proteomics of *Physcomitrella patens* to elucidate the functions of 12-oxo-phytodienoic acid （プロテオミクスを用いたヒメツリガネゴケにおける12-オキソファイトジエン酸の機能解析） 主査：教授　松浦　英幸

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（農学）	エムディア ブド Md. Abdus シャブル タルクダール Shabur Talukder	Pregnancy specific regulation of lysosomal cathepsins in bovine blood leukocytes （ウシ末梢白血球におけるリソソームカテプシンの妊娠特異的応答機構に関する研究） 主査：教授　高橋　昌志
	パッチャラパ Patcharapa クラハーン Klahan	Structure and function of dextran-related enzymes from *Streptococcus mutans* （*Streptococcus mutans*由来デキストラン関連酵素の構造と機能に関する研究） 主査：教授　木村　淳夫
	アルベツス エカ Albertus Eka ユディスチラ サーヨノ Yudistira Sarwono	Purine nucleotide biosynthesis pathway as a drug target: Identification of novel IMPDH and GMPR from *Trypanosoma congolense*, and an inhibitor screening study of *Cryptosporidium parvum* and human type II IMPDH （薬物標的としてのプリンヌクレオチド生合成：*Trypanosoma congolense*由来の新規IMPDH及びGMPRの同定，並びに*Cryptosporidium parvum*及びヒトII型IMPDH 阻害剤の探索研究） 主査：教授　松浦　英幸
	ルーシー ラーリタ Lucy Lahrita	Anti-obesity study of Indonesian medicinal plants: an *in vitro* study in adipocytes （脂肪細胞を対象としたインドネシア薬用植物の抗肥満研究） 主査：准教授　園山　慶
	ワラポン Waraporn イヤォウィリヤヌクン Auiewiriyanukul	Structure-function relationship of GH13_31 α-glucosidase from *Bacillus* sp. AHU2216 （*Bacillus* sp. AHU2216株由来GH13_31 α-グルコシダーゼの構造と機能に関する研究） 主査：教授　森　春英
	いとう たかのり 伊藤貴則	低温酸化プロセスを用いた高水分廃棄物系バイオマスの固形燃料化技術の開発 主査：教授　岩渕　和則
	ウォン グアン Wong Guan ズアン Xhuan	Methane balance of tropical peat ecosystems in Sarawak, Malaysia （マレーシア・サラワク州における熱帯泥炭生態系のメタン収支） 主査：教授　平野　高司
	リカルド オスピナ Ricardo Ospina アラルコン Alarcon	Smart agricultural vehicle by integrating motion model with machine vision data （運動モデルとマシンビジョンのデータ融合によるスマート農用車両の開発） 主査：教授　野口　伸
	フランキー キュー Frankie Kiew	Effect of forest conversion to oil palm plantations on carbon dioxide balance in tropical peatlands （熱帯泥炭林のオイルパームプランテーションへの土地利用変化が二酸化炭素収支に与える影響） 主査：教授　平野　高司
博士（生命科学）	イエ ヤーナン 叶亜楠	Study on Triblock Copolymers: From Relaxation Dynamics of Solution to Toughening Mechanism of Physical Double Network Hydrogels （トリブロック共重合体に関する研究：溶液緩和のダイナミクスからダブルネットワーク物理ゲルの高靭性化原理まで） 主査：教授　龔　剣萍
	ヨゲッシュ ケーヴィー YOGESH K V	Synthesis of Complex Glycopeptides Toward Novel Cancer Marker Discovery （複雑な糖ペプチドの合成による新しい癌マーカーの探索） 主査：教授　西村　伸一郎
	そめやまこと 染谷真琴	Studies on the multisensory integration in cricket's auditory system （コオロギ聴覚系における多感覚統合に関する研究） 主査：教授　小川　宏人
博士（薬科学）	サエド アムジャド Saed Amjad ヨセフ アッバシ Yousef Abbasi	Enhancing Intracellular Delivery and Pharmacokinetics of Small and Hydrophobic Drugs Using Nanoparticles （疎水性低分子の体内動態・細胞内動態を制御する新規ナノ粒子法） 主査：教授　原島　秀吉
	たけだ ひろし 竹田寛	脂質ナノ粒子の品質管理に関する国内外の規制と今後の展望 主査：教授　原島　秀吉
	ひなた みきえ 日向美紀枝	変形性膝関節症疼痛におけるTransient receptor potential vanilloid 4 (TRPV4) の役割 主査：教授　南　雅文

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏　名	博　士　論　文　名
博士（薬科学）	劉（リュウ）　強（キョウ）	Enantioselective Synthesis of Planar-Chiral Metallocenes and Their Application in Asymmetric Catalysis （面不斉メタロセン類のエナンチオ選択的合成法の開発と不斉触媒反応への応用） 主査：教授　高橋　保
博士（臨床薬学）	今井俊吾（いまいしゅんご）	データマイニング手法を用いた医薬品副作用発現リスクの定量的評価モデルの開発 主査：教授　井関　健
	宍戸裕子（ししどゆうこ）	スルホニルフルオリドの反応性を利用した共有結合性リガンドの創製研究 主査：教授　周東　智
博士（教育学）	大澤亜里（おおさわあり）	ヤヌシュ・コルチャックの教育実践 主査：教授　松本　伊智朗
博士（保健科学）	Jared Franklin Boasen（ジェレッド フランクリン ボーセン）	Neural correlates of musical improvisation performance: a magnetoencephalographic investigation （即興演奏に伴う神経活動：脳磁計による探究） 主査：教授　境　信哉
博士（工学）	DE JUAN Lyn Marie Zarsuela（デ フアン リン マリー ザースエラ）	One dimensional nano-materials as anode materials for Lithium-ion Battery （リチウムイオン電池用負極材料としての１次元ナノ材料） 主査：教授　米澤　徹
	尾崎哲浩（おざきてつひろ）	Improvement of Accuracy and Reliability on BWR Thermal-Hydraulic Analysis Code by Newly Modified Interfacial Drag Force Models （最先端の知見に基づく界面せん断力モデルを用いたBWR熱水力解析コードの精度と信頼性向上に関する研究） 主査：特任教授　森　治嗣
	Weerakoon Mudiyanselage Nilan Ranjana Weerakoon（ウィラコン ムディヤンセラゲ ニラン ランジャナ ウィラコン）	Characteristics of stiffness and strength mobilization in steel slag-mixed dredged clays from immediately after mixing （混合直後からのスラグ混合浚渫粘土の剛性と強度発現特性） 主査：准教授　西村　聡
	Kang Taeun（カン テウン）	Studies on morphodynamics in shallow rivers with effects of vegetation and large wood using computational models （浅水流河川の河床変動に及ぼす植生および流木の影響の解明とその数値解析モデリング） 主査：教授　清水　康行
	Panta Anand（パンタ アナンド）	Strength characteristics of fine-grained soils at dyke slope surfaces （堤防表層における細粒土の強度特性） 主査：准教授　西村　聡
	Tansawat Tithiwach（タンサワット ティティワッチ）	Transportation Policy for the Reduction of Social Exclusion of Low-Income and Elderly People in Bangkok （バンコクにおける低所得者や高齢者の社会的疎外を減少させるための交通政策に関する研究） 主査：准教授　岸　邦宏
	Ephrem Telele Weldegiorgis（エフレム テレレ ウェルドギオルギス）	Heritage Conservation Challenges on the Rock-Hewn Churches of Tigray, Ethiopia （エチオピア・ティグライ岩窟教会群における遺産保存活動） 主査：教授　小澤　丈夫
	YIN HOR（ジェン ホア）	Structural Behaviour of Composite RC Members Strengthened with UHPC Subjected to Static and Dynamic Loading （静的および動的荷重を受ける超高性能コンクリートで補強された鉄筋コンクリート複合部材の構造挙動） 主査：准教授　白井　和貴
	Subeg Man Bijukchhen（スベグ マン ビズクチェ）	Construction of 3-D Velocity Structure Model of the Kathmandu Basin, Nepal, based on Geological Information and Earthquake Ground Motion Records （地質情報および地震観測記録に基づくネパール・カトマンズ盆地の３次元速度構造モデルの構築） 主査：准教授　高井　伸雄
	金侖美（キムユンミ）	断面修復コンクリートの早期劣化に関する研究 主査：教授　千歩　修

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	コッテ ヘワ Kotte Hewa プラウィーン Praween マドゥサンカ Madusanka	Study of organic solid waste management in Sri Lanka using centralized composting and household scale anaerobic digestion （施設堆肥化および家庭規模メタン発酵を用いたスリランカにおける有機性固形廃棄物管理に関する研究） 主査：教授　松藤　敏彦
	ラチマディ Rachmadi アンドリ タルナ Andri Taruna	The effect of water disinfection on the adaptive evolution of waterborne viruses （水の消毒が水系感染症ウイルスの適応進化に与える影響に関する研究） 主査：教授　岡部　聡
	ショファ リジャルル Shofa Rijalul ハク HAQ	Biogenic Methane Generation from Lignite with Hydrogen Peroxide for Subsurface Cultivation and Gasification （地層内メタン生産技術確立のための過酸化水素を用いた褐炭のバイオメタン化） 主査：教授　五十嵐　敏文
	の ざわ しょう こ 野澤笑子	酸化マグネシウムを利用した鉱物化学反応によるホウ素の不溶化 主査：教授　佐藤　努
	にし むら たく や 西村拓也	多数回繰返し加力における免震用鉛ダンパーの挙動に関する研究 主査：教授　菊地　優
博士（総合化学）	た むら たか ひろ 田村貴大	Development and Exploration of New Materials Related with Carbon and Boron Nitride （炭素及び窒化ホウ素系新規材料の開発と物性探索） 主査：教授　忠永　清治
	ツァン チンチャン 張晋江	Studies on Plasmonically-powered Processes for Electronic Excitation （プラズモニック電子励起プロセスに関する研究） 主査：教授　加藤　昌子
博士（理学）	キム ジェホン 金制憲	Studies on Structure-Controlled Nano-carbon Materials for Electrocatalysis （電極触媒能を有する構造規制ナノカーボンに関する研究） 主査：教授　武次　徹也
	シャジア シャルミン SHAZIA SHARMIN サッタル SATTER	Low Temperature Oxidation of Ethylene by Silica-Supported Platinum Catalysts （シリカ担持白金触媒によるエチレンの低温酸化） 主査：教授　村越　敬
	チャン レイ 張垨	High-Pressure Synthesis, Crystal Structures and Physical Properties of Perovskites in R_2O_3-Mn_2O_3 Systems (R = Rare Earth Elements) （$R_2O_3-Mn_2O_3$系ペロブスカイトの高圧合成と結晶構造と物性） 主査：教授　武田　定
	ハッサン ナゲ Hassan Nageh Anwar Mohamed	Studies on Synthesis, Structure, and Properties of π-Stacked Poly (dibenzofulvene) （π-スタック型ポリ（ジベンゾフルベン）の合成，構造および性質に関する研究） 主査：教授　鈴木　孝紀
	はやし たか し 林隆史	正常上皮細胞と変異細胞間の相互作用に関与する分子探索の研究 主査：教授　村上　洋太
	リョウ バン ギ 梁磐仪	Development of Thermal Process Methodology and Mechanochemical Synthesis for Luminescent Copper (I) − halide Complexes （発光性銅（I）−ハライド錯体のメカノケミカル合成および熱プロセス法の開発） 主査：特任教授　喜多村　昇
	リン フイウェン 林惠文	Study on the Structure and Composition of Electrochemically Prepared Li-Si Alloys in Organic Solvents （電気化学的に作製したLi-Si合金の有機溶媒における構造と組成に関する研究） 主査：教授　村越　敬
	ロナルド ラゾ Ronald Lazo レイエス REYES	Development of Catalytic Enantioselective C(sp^3) - H Bond Borylation Reactions （触媒的エナンチオ選択的C(sp^3)-H結合ホウ素化反応の開発） 主査：教授　谷野　圭持
博士（工学）	こいづか とおる 小飯塚徹	三価ユウロピウム錯体の励起波長域拡張に関する研究 主査：教授　幅崎　浩樹

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	陳 昊究（ジン ミング）	Development of Novel Luminescent Crystalline Materials of Gold(I) Complexes with Stimuli-Responsive Properties （金(I)錯体を用いた新規な外部刺激応答性を示す発光性結晶材料の開発） 主査：教授　大熊　毅
	PASEUTH Anongsack（パサート アノンサック）	Synthesis of Novel TiN-based Hard Films by Thermal CVD for Metal Cutting Applications （熱CVD法による新規TiN系硬質膜の合成と切削工具への応用） 主査：教授　島田　敏宏

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（文学）	山田桃子（やまだももこ）	内田百閒の研究 主査：教授　中村　三春
博士（法学）	國武英生（くにたけひでお）	労働契約の基礎と法構造－労働契約と労働者概念をめぐる日英米比較法研究－ 主査：教授　加藤　智章
博士（工学）	和田雅樹（わだまさき）	空間多重用光増幅器に関する研究 主査：教授　齊藤　晋聖
	山口信一（やまぐちしんいち）	永久磁石モータの鉄心の製造過程並びに製造ばらつきを考慮したコギングトルク解析に関する研究 主査：准教授　竹本　真紹
	大野槙悟（おおのしんご）	A Study on Optical Fiber Characterization Method for Space Division Multiplexing Transmission Line Utilizing Swept-Frequency Interferometer （周波数掃引光干渉計を用いた空間多重伝送路用光ファイバ評価技術に関する研究） 主査：教授　足立　智
	Le Trung Tuyen（レーチュントゥエン）	Study on Susceptibility to Spontaneous Combustion of Anthracite in Vietnamese Coal Mines （ベトナムの炭鉱における無煙炭の自然発火性に関する研究） 主査：教授　五十嵐　敏文
博士（理学）	倉賀野正弘（くらがのまさひろ）	Studies on Roles of Nonmuscle Myosin II Isoforms in Stress Fiber Organization and Directionally Persistent Migration of Fibroblasts （線維芽細胞のストレスファイバー形成と方向持続的遊走における非筋細胞ミオシンIIアイソフォームの役割に関する研究） 主査：教授　坂口　和靖

▌レクリエーション

学内教職員ソフトボール大会の開催

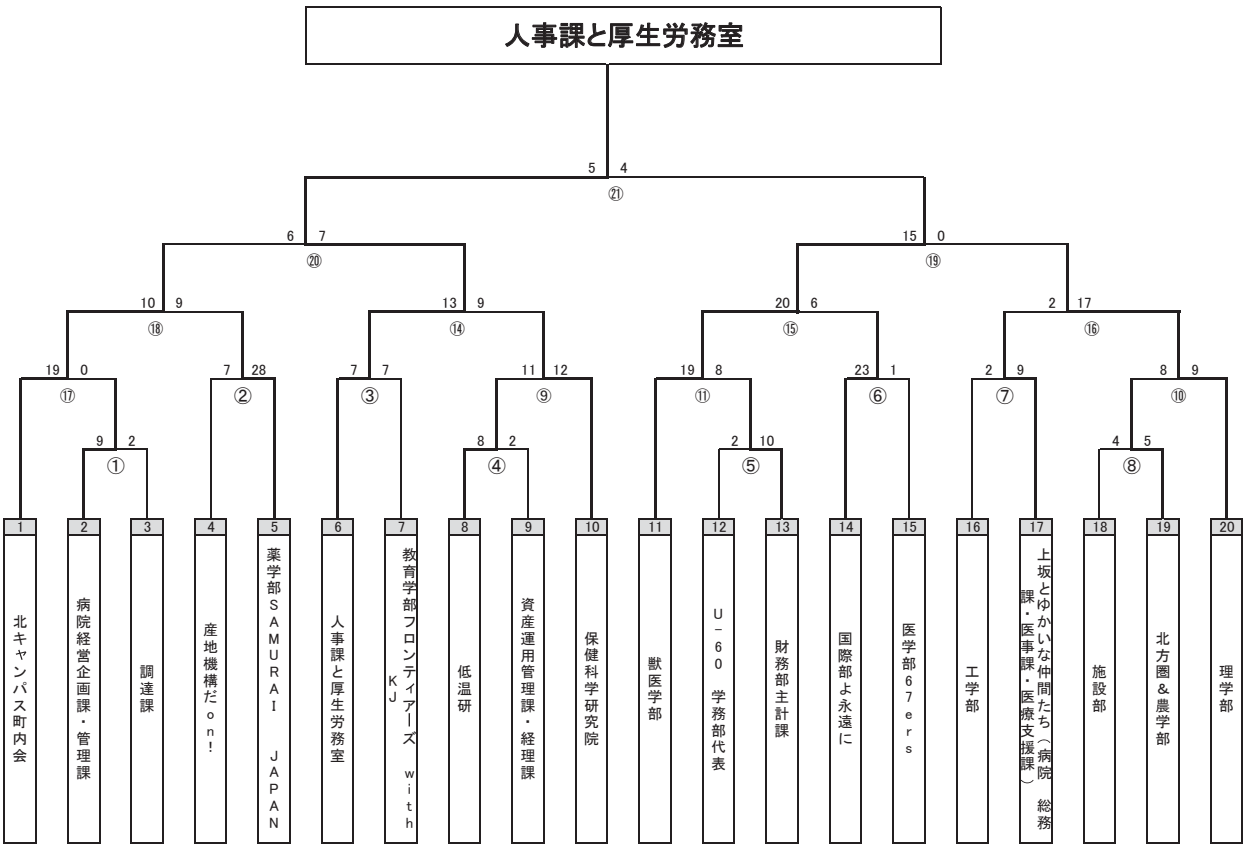
学内教職員ソフトボール大会を，６月18日（月）から９月３日（月）の約２ヶ月半にわたり，本学Ｂ球場で開催しました。

参加20チーム・約400名の選手により，連日熱戦が繰り広げられました。選手のみならず，応援の方々のたくさんの歓声があふれる中，「人事課と厚生労務室」チームが見事に栄冠を勝ち取りました。

なお，対戦結果は以下のとおりです。

（全北大野球部，Re-birth）

平成30年度　教職員ソフトボール大会



優勝「人事課と厚生労務室」チーム

平成30年度 第48回 札幌社会人サッカーリーグに出場

５月６日（日）～９月23日（日）の日程で平成30年度第48回札幌社会人サッカーリーグに出場しました。

最上位のSリーグから新規加入チームによるライラックリーグまで，全10部・93チームで構成されるリーグ戦で，教職員サッカークラブはBリーグ２部に所属し，８勝１敗の成績で，平成24年度からの社会人サッカーリーグ参戦以降，初優勝を飾りました。対戦成績は以下のとおりです。

また，北大教職員サッカークラブは夏場のサッカーだけでなく，11～３月にかけては屋内でフットサルの活動もしており，札幌社会人フットサルリーグにも参加しております。

サッカーやフットサルの活動の詳細は，ホームページからご確認いただけます。興味のある方は，お近くの部員かホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

北大教職員サッカークラブＨＰ：http://hokudaikyousyokuinsc.web.fc2.com/

（教職員サッカークラブ）

５月６日	教職員サッカークラブ	３－１	薄野倶楽部
５月20日	教職員サッカークラブ	１－０	NECソリューションイノベータ北海道
６月10日	教職員サッカークラブ	１－３	Northern Light City
６月24日	教職員サッカークラブ	３－０	ユベンコスFC
７月８日	教職員サッカークラブ	３－１	北海道新聞社サッカー部
７月15日	教職員サッカークラブ	３－０	LooP
７月29日	教職員サッカークラブ	７－０	Docon F.C
８月19日	教職員サッカークラブ	７－１	Frolic FC
９月23日	教職員サッカークラブ	16－０	北日本港湾FC

集合写真

第57回 全日本教職員バドミントン選手権大会に出場

８月12日（日）から15日（水）に愛知県一宮市において「第57回 全日本教職員バドミントン選手権大会」が開催され，職員バドミントン部の山西裕大部員（病院管理課）が，個人戦のシングルスとダブルスに出場しました。シングルスは惜しくも１回戦で敗退したものの，八木選手（伏見中）とのペアで挑んだダブルスでは，１回戦を見事勝利し，続く２回戦ではフルセットまでもつれ込む接戦となりましたが，惜しくも敗退し，ベスト32の成績で大会を終えました。

職員バドミントン部では，教職員大会や他大学との交流戦等に向け，日々練習に励んでおります。また，随時部員を募集しておりますので，ご興味のある方は以下までご連絡ください。

職員バドミントン部
幹事　永井：j-nagai@jimu.hokudai.ac.jp

（職員バドミントン部）

試合の様子（手前が山西部員）

▌諸会議の開催状況

役員会（平成30年９月18日）

協議事項・業務上の余裕金の運用に係る認定申請について
・北海道大学病院長候補者選考会議の設置について
・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・「北海道大学緑のビアガーデン2018」及び「北海道大学緑のジンギスカンWineガーデン＆Beer祭り」の実施報告について
・平成30年度オープンキャンパス及び北海道大学進学相談会（東京会場）開催結果について
・特定非常災害で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について
・平成30年人事院給与勧告等について
・平成31年度概算要求の重点支援にかかる評価指標の精選について
・平成31年度概算要求について（財務省要求）
・北大病院における医療観察法入院病棟（分院）の設置について

教育研究評議会（平成30年９月20日）

議　　題・経営協議会の学外委員について
・北海道大学病院長候補者選考会議の設置について
・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・北大病院における医療観察法入院病棟（分院）の設置について
・「北海道大学緑のビアガーデン2018」及び「北海道大学緑のジンギスカンWineガーデン＆Beer祭り」の実施報告について
・情報セキュリティセミナーの実施について
・寄附分野の設置について
・平成31年度概算要求の重点支援にかかる評価指標の精選について
・平成31年度概算要求について（財務省要求）

役員会（平成30年９月26日）

議　　案・北海道大学病院長候補者選考会議の設置について
・諸規則の制定及び一部改正について
・平成29年度内部統制システムモニタリング結果について
・奨学金返還の免除について

報告事項・平成30年11月試行調査（大学入学共通テストプレテスト）の実施について
・障害者の雇用状況等について
・平成29事業年度財務諸表の承認について

経営協議会（平成30年９月28日）

議　　題・業務上の余裕金の運用に係る認定申請について

報告事項・平成31年度概算要求について（財務省要求）
・北大病院における医療観察法入院病棟（分院）の設置について

そ の 他・平成30年人事院給与勧告等について

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

▌学内規程

国立大学法人北海道大学事務組織規程及び国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

（平成30年９月26日海大達第129号）

平成30年９月25日付けで大学院工学研究科が廃止されることに伴い，所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

（平成30年10月１日海大達第130号）

国立大学法人北海道大学技術支援本部規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第132号）

国立大学法人北海道大学技術支援本部運営委員会規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第133号）

平成30年10月１日付けで，技術支援本部の組織を改めることに伴い，所要の改正を行ったものです。

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第131号）

大学院工学研究院及び医学研究院に置く分野の廃止及び新設を行うことに伴い，所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第134号）

創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて，加工料等の見直し及び材料加工に使用する設備の削除を行うことに伴い，所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構日本語・日本文化研修コース規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第135号）

本研修コースにおいて，より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い，所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学教育研究組織の長の任命等に関する規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第136号）

国立大学法人北海道大学における教授会への意見聴取事項等に係る規程

（平成30年10月１日海大達第137号）

北海道大学病院規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第143号）

国立大学法人北海道大学病院長候補者選考会議規程

（平成30年10月１日海大達第144号）

医療法（昭和23年法律第205号）が一部改正され，特定機能病院の管理者の選任は，特定機能病院の開設者と特別の関係がある者以外の者を構成員に含む管理者となる者を選考するための合議体を設置し，その審査の結果を踏まえて行わなければならないとされたことに伴い，所要の定め及び改正を行ったものです。

北海道大学通則の一部を改正する規則

（平成30年10月１日海大達第138号）

北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

（平成30年10月１日海大達第139号）

平成31年４月１日付けで授業料の未納を理由として除籍した者に係る復籍の取扱いを廃止することに伴い，所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第140号）

本学大学院に置かれる「物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム」において，当該プログラムを構成する専攻として，生命科学院ソフトマター専攻を追加することに伴い，所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第141号）

本学のオープンファシリティについて，設備の追加及び削除を行うことに伴い，所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第142号）

ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用形態を新たに設けること及び利用料等の算出根拠の見直しに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学病院管理運営協議会規程

（平成30年10月１日海大達第145号）

医療法（昭和23年法律第205号）第19条の２第３号に規定する特定機能病院の管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制として，北海道大学病院の管理運営の状況を点検するための会議体を設置することに伴い，所要の定めを行ったものです。

北海道大学大学文書館公文書室利用等規程の一部を改正する規程

（平成30年10月１日海大達第146号）

平成30年５月18日付けで，「特定歴史公文書等の保存，利用及び廃棄に関するガイドライン」が改正されたことに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

研修

研修名：平成30年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催期間：平成30年８月29日～31日
開催場所：学術交流会館第一会議室
研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに，職務に対する知識を深め，企画力及び問題解決能力の向上を図ること。

開講挨拶（関　靖直 理事・事務局長）

講義・実習（特定非営利活動法人　手と手）

講義・グループワーク
（株式会社　フォーブレーン）

（総務企画部人事課）

研修名：平成30年度Excelを用いたテキストデータ取扱講座

開催期間：平成30年９月14日
開催場所：情報基盤センター
研修目的：基本的な情報セキュリティ等の知識及びExcelを用いてテキストファイルやCSVファイル等を活用するための知識を習得すること。

研修の様子

（総務企画部情報企画課）

研修名：平成30年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修　初級編）

開催期間：平成30年９月27日～28日
開催場所：情報基盤センター
研修目的：基本的な情報セキュリティ等の知識及びAccessを利用して業務システムのデータを活用するための知識を習得すること。

研修の様子

（総務企画部情報企画課）

▌表敬訪問

海外

年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
30.9.27	タイ農業協同組合省Waraporn Prompoj 統括監察官	両国の交流に関する懇談

タイ農業協同組合省　Waraporn Prompoj
統括監察官（前列左から4番目）

（国際部国際連携課）

▌人事

平成30年９月20日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：平成32年９月19日まで）	阿　部　啓　二	北海道副知事

平成30年10月１日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【施設長】 社会科学実験研究センター長 （期間：平成32年９月30日まで）	大　沼　　進	大学院文学研究科教授
【教授】 大学院農学研究院教授 大学院経済学研究院教授 国際連携研究教育局・北極域研究センター教授	園　山　　慶 岡　田　美弥子 深　町　　康	大学院農学研究院准教授 大学院経済学研究院准教授 国際連携研究教育局・低温科学研究所准教授

新任部局長等紹介

平成30年10月１日付

社会科学実験研究センター長に

大沼（おおぬま）　進（すすむ）　教授

平成30年９月30日限りで結城雅樹社会科学実験研究センター長が任期満了となり，その後任として大沼　進教授が発令されました。

任期は，平成32年９月30日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和45年１月20日
平成５年３月	名古屋大学文学部卒業
平成７年３月	名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了
平成７年４月	株式会社三菱総合研究所研究員
平成10年３月	同上退職
平成10年５月	北海道大学文学部助手
平成12年４月	富士常葉大学流通経済学部講師
平成13年４月	静岡県立大学非常勤講師
平成15年９月	北海道大学大学院文学研究科助教授
平成17年２月	博士（心理学）（名古屋大学）
平成19年４月	北海道大学大学院文学研究科准教授
平成30年４月	北海道大学大学院文学研究科教授

新任教授紹介

平成30年10月１日付

農学研究院教授に

園山（そのやま）　慶（けい）　氏

基盤研究部門生物機能化学分野

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程中退（平成４年３月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

食品機能化学

経済学研究院教授に

岡田（おかだ）　美弥子（みやこ）　氏

現代経済経営部門経営分析分野

生年月日

昭和39年７月31日

最終学歴

神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了（平成12年９月）
博士（経営学）（神戸大学）

専門分野

国際経営論

北極域研究センター教授に

深町（ふかまち）　康（やすし）　氏

大気圏・水圏研究グループ

生年月日
昭和38年２月12日
最終学歴
米国ノバ大学 博士課程修了（平成４年10月）
Ph.D., Oceanography（ノバ大学）
専門分野
海洋物理学

訃報

名誉教授　松原（まつばら）　嘉市（かいち）　氏
（享年92歳）

名誉教授　松原嘉市先生が平成30年９月６日に逝去されました。

先生は札幌出身で，昭和22年９月に北海道帝国大学工学部生産冶金工学科を卒業した後，同年10月から日本製鋼所室蘭製作所に勤務され，製鋼工場において平炉製鋼・電気炉製鋼・ガス発生炉の業務に従事されました。この間，昭和29年には約半年に及ぶ大規模な労働争議が起こり，その最中に洞爺丸台風による被害を受けるなど，大変な混乱を経験されました。

昭和30年４月に北大工学部に助教授として着任されてからは，金属工学第三講座の萩原巖教授のもとで「大型鋼塊に散見される一文字状介在物の研究」に従事されました。昭和39年には新設されたばかりの金属工学第六講座の教授に昇任され，平成元年３月に停年退官されるまで一貫して鋼中介在物の研究に従事されました。その間に上記一文字状介在物が硫化マンガン系の析出物であること，及びそれが鋼の高温脆性を引き起こす有害介在物の正体であることを突き止められ，同講座所属の伊藤洋一助教授や米沢襄技官らとともに長時間にわたる高温相平衡実験と精密な化学組成分析を繰り返し行い，Fe-Mn-S三元系およびFe-Mn-S-C四元系の平衡状態図を作成されました。これら状態図を基に，鋼の凝固中及びその後の冷却中における上記硫化マンガン系介在物の形成過程を定量的に説明することに成功されました。先生は，これらの優れた研究成果に対し，昭和41年に日本鉄鋼協会渡辺義介記念賞を，また平成元年には日本鉄鋼協会三島賞を授与されました。

学外においては，文部省学術審議会委員，日本鉄鋼協会本部理事，日本金属学会北海道支部長，溶接学会北海道支部長を歴任されました。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し，ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（工学院・工学研究院・工学部）

編集メモ

●キャンパス内の木々が秋らしく彩り，美しい景色を見られる季節を迎えました。毎年多くの方々で賑わうイチョウ並木通りをはじめ，キャンパス内のあちらこちらで赤や黄色に色づく木々が秋の空に映えています。

●９月29日（土）に開催したホームカミングデーは，多くの同窓生等の皆様をお迎えすることができました。次回は平成31年９月28日（土）の開催を予定しています。

2016.10.22　石勝線夕張支線　鹿ノ谷～清水沢（夕張市）

北の鉄道風景 67 晩秋の石勝線夕張支線

現在，道央と道東を結ぶ幹線ルートとして機能している石勝線。室蘭本線の追分と夕張間に敷設された旧夕張線（1892年開業）に，千歳線の南千歳から分岐して追分に至る新線と，新夕張－根室本線・新得間を短絡する新線を接続することで1981年に開業した路線である。石勝線の開業に伴い，旧夕張線の末端であった新夕張－夕張の区間は，支線として石勝線に編入された。全区間が夕張市内で完結する同支線であるが，利用者数の激減やJR北海道の厳しい経営状況を背景に，夕張市がJRへ廃線を提案という特異な経緯で，2019年３月31日限りで廃止されることが決まった。写真は紅葉の夕張支線を行く列車である。この路線で紅葉が見られるのは今秋が最後，北の地からまた一つ鉄路が消えてしまうことに寂しさを禁じえない今日この頃である。

情報科学研究科　准教授　山本　学

北大時報 ⑩　No.775　　平成30年10月発行

北海道大学総務企画部広報課　〒060－0808 札幌市北区北８条西５丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html